工　事　設　計　書　等

工事設計書等のダウンロードにあたって

　知り得た情報は、関東地方整備局以外の者の権利を含む場合があるため、ダウンロードを行った個人又は法人における１次利用に限るものとし、有償無償に関わらず「第三者への提供行為※」を行わないでください。

※「他の第三者への提供行為」・・・PDFデータのまま、あるいは、紙に出力して等の手段に関わらず、ダウンロードを行った個人又は法人以外の他者による２次利用につながる一切の行為を指します。

国土交通省　関東地方整備局
高崎河川国道事務所

鏡

１．工事名

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事
工事地名	群馬県伊勢崎市赤堀今井町２丁目地先

２．工事内容

１）	発注年月	令和 8年 2月		１２）	設 計 年 月	令和 8年 3月	
２）	事務所名	高崎河川国道事務所　工務第二課		１３）	機械損料一括補正	0	労務費一括割増　0%
３）	工事番号			１４）	単価適用年月	2026年 3月	
４）	契約区分			１５）	歩掛適用年月	2026年 3月	
５）	変更回数	0回		１６）	前請負工事費	0	
６）	主 工 種	舗装工事		１７）	前請負代金額	0	
７）	工 事 量			１８）	調 整 区 分	0	
８）	工　　期	278日間	自　令和 8年 4月 6日	１９）	共通仮設費対象額		
		（当初）	至　令和 9年 1月 8日	２０）	現場管理費対象額		
		（ 0回変更）	至　年 月 日	２１）	一般管理費等対象額		
９）	施 工 県	群馬県		２２）	処 分 費 等	0	
１０）	地　　区	前橋・高崎地区		２３）	公 告 日	令和 8年 2月 6日	
１１）	河川・路線	一般国道５０号		２４）	入 札 締 切 日	年 月 日	

３．予算科目

1)　予算科目：	2)　目：	3)　目の細分：	4)　事業名：

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
舗装		式	1		40,347,632			
道路土工		式	1		2,198,557			
路体盛土工		式	1		2,022,109			
路体(築堤)盛土 (1)	4.0m以上	m3	320	238.2	76,224			単-1号
路体(築堤)盛土 (2)	2.5m以上4.0m未満	m3	90	849	76,410			単-2号
路体(築堤)盛土 (3)	2.5m未満	m3	180	6,807	1,225,260			単-3号
土砂等運搬	土砂(岩塊･玉石混り土含む)	m3	650	754.2	490,230			単-4号
積込(ﾙｰｽﾞ)	土砂　土量50,000m3未満	m3	650	236.9	153,985			単-5号
法面整形工		式	1		176,448			
法面整形(盛土部)	法面締固め有　現場制約無	m2	240	735.2	176,448			単-6号
舗装工		式	1		19,534,688			
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工(ICT)		式	1		16,943,084			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 200ｍｍ	m2	1,930	741.8	1,431,674			単-7号
上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 200ｍｍ	m2	1,930	1,427	2,754,110			単-8号
上層路盤(車道・路肩部)	再生瀝青安定処理材(40) 仕上り厚 80ｍｍ	m2	1,930	2,675	5,162,750			単-9号
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度ｱｽｺﾝ(20) 舗装厚 50ｍｍ 3.0m超	m2	1,930	1,741	3,360,130			単-10号
中間層(車道・路肩部)	各種(2.30以上2.40t/m3未満) 粗粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物ﾎﾟﾘﾏｰ改質Ⅱ型(20) 舗装厚 50ｍｍ 3.0m超	m2	1,930	2,194	4,234,420			単-11号
透水性舗装工		式	1		2,591,604			
ﾌｨﾙﾀｰ層	再生砂 仕上り厚 100ｍｍ	m2	694	1,176	816,144			単-12号
下層路盤(歩道部)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 100ｍｍ	m2	694	961.3	667,142			単-13号
表層	開粒度アスコン（１３）　2.4m以上 舗装厚 40ｍｍ	m2	694	1,597	1,108,318			単-14号
ｶﾙﾊﾞｰﾄ工		式	1		461,860			
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｶﾙﾊﾞｰﾄ工		式	1		461,860			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾎﾞｯｸｽ	内幅 0.3m 内高 0.3m	m	14	32,990	461,860			単-15号
排水構造物工		式	1		9,033,341			
側溝工		式	1		7,177,330			
管(函)渠型側溝 (1)	幅 25ｃｍ 高さ 37.5ｃｍ	m	107	23,830	2,549,810			単-16号
管(函)渠型側溝 (2)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ	m	110	32,820	3,610,200			単-17号
管(函)渠型側溝 (3)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ（中央分離帯）	m	29	35,080	1,017,320			単-18号
管渠工		式	1		23,511			
暗渠排水管	据付 直管 200～400mm	m	3	7,837	23,511			単-19号
集水桝･ﾏﾝﾎｰﾙ工		式	1		776,280			
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (1)	卵形側溝用桝 300用	箇所	2	91,340	182,680			単-20号
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (2)	卵形側溝用桝 350用	箇所	3	106,000	318,000			単-21号
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (3)	卵形側溝用桝 350用（中央分離帯）	箇所	1	104,300	104,300			単-22号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
現場打ち集水桝	700×700×1000 18-8-25(高炉) 法面作業補正無	箇所	1	89,370	89,370			単-23号
蓋	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋 700×700 車道用	枚	1	81,930	81,930			単-24号
防草ｺﾝｸﾘｰﾄ		式	1		1,056,220			
張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25 (高炉) W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	m2	220	4,801	1,056,220			単-25号
縁石工		式	1		4,792,326			
縁石工		式	1		4,346,586			
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (1)	180/230×250×600 両面R	m	229	8,984	2,057,336			単-26号
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (2)	180/210×300×1000 片面R 防草タイプ	m	200	9,623	1,924,600			単-27号
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (3)	180/210×250×1000 片面R	m	29	11,930	345,970			単-28号
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (4)	180/210×250×1000 片面R	m	1	18,680	18,680			単-29号
中央分離帯工	t=70	式	1		445,740			
張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25 (高炉) W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	m2	102	4,370	445,740			単-30号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
防護柵工		式	1		2,801,400			
防止柵工		式	1		2,801,400			
転落(横断)防止柵	柵高 1.1m 土中建込	m	230	12,180	2,801,400			単-31号
仮設工		式	1		1,525,460			
交通管理工		式	1		1,525,460			
交通誘導警備員		人日	89	17,140	1,525,460			単-32号
直接工事費		式	1		40,347,632			
共通仮設費		式	1		5,907,025			
共通仮設費		式	1		1,171,025			
技術管理費		式	1		695,025			
六価ｸﾛﾑ溶出試験		式	1	7,800	7,800			単-33号
ｼｽﾃﾑ初期費(ICT)		式	1		623,000			内-1号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（当　初）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	舗装

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ作成費用		式	1		64,225			内-2号
現場環境改善費（率計上）		式	1		476,000			
共通仮設費（率計上）		式	1		4,736,000			
純工事費		式	1		46,254,657			
現場管理費		式	1		14,100,000			
工事原価		式	1		60,354,657			
一般管理費等		式	1		10,995,343			
工事価格		式	1		71,350,000			
消費税相当額		式	1		7,135,000			
工事費計		式	1		78,485,000			

一式当たり内訳書

ｼｽﾃﾑ初期費(ICT)

第　1号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
システム初期費（ＩＣＴ）	ﾓｰﾀｸﾞﾚｰﾀﾞ	式	1		623,000			
合　計					623,000			

一式当たり内訳書

道路施設基本ﾃﾞｰﾀ作成費用

第　2号内訳書

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ作成費用	技術員	人	1.75	36,700	64,225			
合　計					64,225			

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	路体(築堤)盛土 (1)	4.0m以上	単位	m3	数量	1	単価	238.2

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
路体（築堤）盛土	4.0m以上 20,000m3未満 無し	m３	1	238.2	238.2	
計					238.2	
単価					238.2	円／m3

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	路体(築堤)盛土 (2)	2.5m以上4.0m未満	単位	m3	数量	1	単価	849

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
路体（築堤）盛土	2.5m以上4.0m未満	m３	1	849	849	
計					849	
単価					849	円／m3

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－3号	路体(築堤)盛土 (3)	2.5m未満	単位	m3	数量	1	単価	6,807

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
路体（築堤）盛土	2.5m未満	m３	1	6,807	6,807	
計					6,807	
単価					6,807	円／m3

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－4号	土砂等運搬	土砂(岩塊･玉石混り土含む)	単位	m3	数量	1	単価	754.2

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土砂等運搬	標準 ﾊﾞｯｸﾎｳ山積0.8m3(平積0.6m3) 土砂(岩塊･玉石混り土含む) 無し 3.0km以下	m３	1	754.2	754.2	
計					754.2	
単価					754.2	円／m3

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－5号	積込(ﾙｰｽﾞ)	土砂 土量50,000m3未満	単位	m3	数量	1	単価	236.9

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
積込（ルーズ）	土砂 土量50,000m3未満	ｍ３	1	236.9	236.9	
計					236.9	
単価					236.9	円／m3

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－6号	法面整形(盛土部)	法面締固め有 現場制約無	単位	m2	数量	1	単価	735.2

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
法面整形	盛土部 有り 無し ﾚｷ質土、砂及び砂質土、粘性土 全ての費用	ｍ２	1	735.2	735.2	
計					735.2	
単価					735.2	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－7号	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 200ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	741.8

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
下層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）	200mm 1層施工 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40	ｍ２	1	741.8	741.8	
計					741.8	
単価					741.8	円／m2

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－8号	上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 200ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	1,427

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
上層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）	200mm 2層施工 粒度調整砕石 M-40	ｍ２	1	1,427	1,427	
計					1,427	
単価					1,427	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－9号	上層路盤(車道・路肩部)	再生瀝青安定処理材(40) 仕上り厚 80ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	2,675

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
上層路盤（車道・路肩部）	再生瀝青安定処理材（４０） 3.0m超 80mm ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ PK-3 全ての費用	ｍ２	1	2,675	2,675	
計					2,675	
単価					2,675	円／m2

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－10号	基層(車道・路肩部)	再生粗粒度ｱｽｺﾝ(20) 舗装厚 50ｍｍ 3.0m超	単位	m2	数量	1	単価	1,741

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
基層（車道・路肩部）	3.0m超 50mm 再生粗粒度アスコン（２０） ﾀｯｸｺｰﾄ PK-4 全ての費用	ｍ２	1	1,741	1,741	
計					1,741	
単価					1,741	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－11号	中間層(車道・路肩部)	各種(2.30以上2.40t/m3未満) 粗粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物ﾎﾟﾘﾏｰ改質Ⅱ型(20) 舗装厚 50ｍｍ 3.0m超	単位	m2	数量	1	単価	2,194

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
中間層（車道・路肩部）	3.0m超 50mm 各種(2.30以上2.40t/m3未満) ﾀｯｸｺｰﾄ PK-4 全ての費用	ｍ２	1	2,194	2,194	
計					2,194	
単価					2,194	円／m2

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－12号	ﾌｨﾙﾀｰ層	再生砂 仕上り厚 100ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	1,176

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
フィルター層	100mm以上120mm未満	ｍ２	1	1,176	1,176	
計					1,176	
単価					1,176	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－13号	下層路盤(歩道部)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 100ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	961.3

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
下層路盤（歩道部）	100mm 1層施工 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 全ての費用	ｍ２	1	961.3	961.3	
計					961.3	
単価					961.3	円／m2

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－14号	表層	開粒度アスコン（１３）　2.4m以上 舗装厚 40ｍｍ	単位	m2	数量	1	単価	1,597

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
表層（歩道部）	1.4m以上 40mm 各種(2.00以上2.10t/m3未満) 無し 全ての費用	ｍ２	1	1,597	1,597	
計					1,597	
単価					1,597	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－15号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾎﾞｯｸｽ	内幅 0.3m 内高 0.3m	単位	m	数量	1	単価	32,990

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ボックスカルバート	据付 2.0m/個 0＜B≦1.25 0＜H≦1.25 基礎砕石+均しｺﾝｸﾘｰﾄ 無し 標準 全ての費用	m	1	32,990	32,990	
計					32,990	
単価					32,990	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－16号	管(函)渠型側溝 (1)	幅 25ｃｍ 高さ 37.5ｃｍ	単位	m	数量	1	単価	23,830

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
管（函）渠型側溝	据付 200mm以上300mm以下 有り 全ての費用	m	1	23,830	23,830	
計					23,830	
単価					23,830	円／m

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－17号	管(函)渠型側溝 (2)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ	単位	m	数量	1	単価	32,820

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
管（函）渠型側溝	据付 200mm以上300mm以下 有り 全ての費用	m	1	32,820	32,820	
計					32,820	
単価					32,820	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－18号	管(函)渠型側溝 (3)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ（中央分離帯）	単位	m	数量	1	単価	35,080

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
管（函）渠型側溝	据付 200mm以上300mm以下 有り 全ての費用	m	1	35,080	35,080	
計					35,080	
単価					35,080	円／m

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－19号	暗渠排水管	据付 直管 200～400㎜	単位	m	数量	1	単価	7,837

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
暗渠排水管	据付 直管 200～400㎜ 全ての費用	m	1	7,837	7,837	
計					7,837	
単価					7,837	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－20号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (1)	卵形側溝用桝 300用	単位	箇所	数量	1	単価	91,340

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
プレキャスト集水桝	据付 200kgを超え400kg以下 有り 全ての費用	基	1	6,231	6,231	
プレキャスト集水桝（材料費）		基	1	85,100	85,100	
計					91,331	
単価					91,340	円／箇所

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－21号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (2)	卵形側溝用桝 350用	単位	箇所	数量	1	単価	106,000

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
プレキャスト集水桝	据付 200kgを超え400kg以下 有り 全ての費用	基	1	6,231	6,231	
プレキャスト集水桝（材料費）		基	1	99,700	99,700	
計					105,931	
単価					106,000	円／箇所

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－22号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (3)	卵形側溝用桝 350用（中央分離帯）	単位	箇所	数量	1	単価	104,300

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
プレキャスト集水桝	据付 200kgを超え400kg以下 有り 全ての費用	基	1	6,231	6,231	
プレキャスト集水桝（材料費）		基	1	98,000	98,000	
計					104,231	
単価					104,300	円／箇所

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－23号	現場打ち集水桝	700×700×1000 18-8-25(高炉) 法面作業補正無	単位	箇所	数量	1	単価	89,370

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
現場打ち集水桝・街渠桝（本体）	18-8-25(高炉) 0.58m3を超え0.61m3以下 人力打設 一般養生･特殊養生(練炭)	箇所	1	89,370	89,370	
計					89,370	
単価					89,370	円／箇所

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－24号	蓋	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋 700×700 車道用	単位	枚	数量	1	単価	81,930

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
蓋版	据付け 無し 蓋版(各種) 40を超え170kg/枚以下 無し 無し	枚	1	81,930	81,930	
計					81,930	
単価					81,930	円／枚

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－25号	張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25（高炉）W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	単位	m2	数量	10	単価	4,801

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
基礎砕石	7.5cmを超え12.5cm以下 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ 40～0 全ての費用	m２	10	1,366	13,660	
型枠工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ	m２	0.7	6,154	4,307.8	
コンクリート打設工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ 人力打設 各種 無し 7m3/100m2 有り	m２	10	2,892	28,920	
養生工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ	m２	10	111.8	1,118	
計					48,005.8	
単価					4,801	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－26号	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (1)	180/230×250×600　両面R	単位	m	数量	1	単価	8,984

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
歩車道境界ブロック	設置 各種(600mm以下、50kg以上100kg未満) 1.65個/m 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40	m	1	8,984	8,984	
計					8,984	
単価					8,984	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－27号	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (2)	180/210×300×1000 片面R 防草タイプ	単位	m	数量	1	単価	9,623

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
歩車道境界ブロック	設置 各種(600mm超1000mm以下、50kg以上150kg未満) 1個/m 無し 生ｺﾝｸﾘｰﾄ(各種) 無し	m	1	9,623	9,623	
計					9,623	
単価					9,623	円／m

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－28号	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (3)	180/210×250×1000 片面R	単位	m	数量	1	単価	11,930

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
歩車道境界ブロック	設置 各種(600mm超1000mm以下、50kg以上150kg未満) 1個/m 無し 無し	m	1	11,930	11,930	
計					11,930	
単価					11,930	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－29号	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (4)	180/210×250×1000 片面R	単位	m	数量	1	単価	18,680

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
歩車道境界ブロック	設置 各種(600mm超1000mm以下、50kg以上150kg未満) 1個/m 無し 無し	m	1	18,680	18,680	
計					18,680	
単価					18,680	円／m

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－30号	張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25（高炉）W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	単位	m2	数量	1	単価	4,370

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
基礎砕石	7.5cmを超え12.5cm以下 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ 40～0 全ての費用	m２	1	1,366	1,366	
コンクリート打設工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ 人力打設 各種 無し 7m3/100m2 有り	m２	1	2,892	2,892	
養生工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ	m２	1	111.8	111.8	
計					4,369.8	
単価					4,370	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－31号	転落(横断)防止柵	柵高 1.1m 土中建込	単位	m	数量	1	単価	12,180

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
防護柵（横断・転落防止柵）設置工	土中建込 ﾋﾞｰﾑ式･ﾊﾟﾈﾙ式 3m 無 100m以上(標準) 無 無	m	1	12,180	12,180	
計					12,180	
単価					12,180	円／m

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－32号	交通誘導警備員		単位	人日	数量	1	単価	17,140

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員Ｂ		人日	1	17,140	17,140	
計					17,140	
単価					17,140	円／人日

１次単価表

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－33号	六価ｸﾛﾑ溶出試験		単位	式	数量	1	単価	7,800

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
六価ｸﾛﾑ溶出試験	環境庁告示第46号溶出試験	検体	1	7,800	7,800	
計					7,800	
単価					7,800	円／式

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	蓋版	据付け 無し 蓋版(各種) 40を超え170kg/枚以下 無し 無し	単位	枚	数量	100	単価	81,930

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
蓋版コンクリート・鋼製	１７０ｋｇ以下　昼　無	枚	100	1,022.04	102,204	
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	T-25 700×700 細目ボルト固定	枚	100	80,900	8,090,000	
諸雑費（まるめ）		式	1		796	
計					8,193,000	
単価					81,930	円／枚

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	型枠工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ	単位	ｍ２	数量	10	単価	6,154

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	0.43	32,946	14,166	
型わく工		人	0.86	31,824	27,368	
普通作業員		人	0.52	25,806	13,419	
諸雑費（率＋まるめ） 12%		式	1		6,587	
計					61,540	
単価					6,154	円／ｍ２

参考資料（1）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	コンクリート打設工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ 人力打設 各種 無し 7m3/100m2 有り	単位	ｍ２	数量	100	単価 2,892

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	1	32,946	32,946	
普通作業員		人	3.2	25,806	82,579	
生コンクリート	18-8-25（高炉）W/C指定なし	ｍ３	8.47	20,100	170,247	
諸雑費（率＋まるめ） 3%		式	1		3,428	
計					289,200	
単価					2,892	円／ｍ２

参考資料（1）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	養生工	防草ｺﾝｸﾘｰﾄ	単位	ｍ２	数量	100	単価	111.8

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
土木一般世話役		人	0.09	32,946	2,965	
普通作業員		人	0.31	25,806	7,999	
諸雑費（率＋まるめ） 2%		式	1		216	
計					11,180	
単価					111.8	円／ｍ２

参考資料（1）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	防護柵（横断・転落防止柵）設置工	土中建込 ﾋﾞｰﾑ式･ﾊﾟﾈﾙ式 3m 無 100m以上(標準) 無 無	単位	m	数量	100	単価	12,180

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
横断・転落防止柵設置工　土中建込用	ビーム式・パネル式	m	100	1,774.8	177,480	
転落防止柵	縦柵 土中式 H=1100@3000 景観色塗装	m	100	10,400	1,040,000	
諸雑費（まるめ）		式	1		520	
計					1,218,000	
単価					12,180	円／m

参考資料（1）

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	交通誘導警備員Ｂ		単位	人日	数量	1	単価	17,140

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員Ｂ		人	1	17,136	17,136	
諸雑費（まるめ）		式	1		4	
計					17,140	
単価					17,140	円／人日

単価使用年月	2026. 3
歩掛使用年月	2026. 3
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

	システム初期費（ＩＣＴ）	ﾓｰﾀｸﾞﾚｰﾀﾞ	単位	式	数量	1	単価	623,000

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
システム初期費	モータグレーダ	式	1		623,000	
計					623,000	
単価					623,000	円／式

共通仮設費

主たる工種							
単独（追加工事）： 舗装工事					合算工事： 0		
対象工事費	40,347,632	直接工事費	40,347,632	準備費	0	事業損失	0
対象工事費に含まれる全処分費額		単独（追加工事）	0	現工事	0	合算工事	0
非対象額計（－）		0					
管理費区分１		0	（橋梁、ＰＣ桁、門扉、ポンプ等購入費）				
管理費区分２，７		0	（工場原価）				
管理費区分５		0	（一般管理費等のみ対象額）				
管理費区分９		0	（間接費非対象額）				
管理費区分Ｔ		0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額 ）				
対象額　支　給　品（＋）		0					
無償貸付機械評価額（＋）		0					
共通仮設費対象額							
単独（追加工事）		40,347,632		現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く共通仮設費対象額		40,347,632			0		0
共通仮設費（率分）							
率（補正前）		11.51 %			0 %		
施工地域等補正		0 %	ICT施工補正		1		
率（補正後）		11.74 %	（11.51% × 週休1.02）				
計上額		4,736,000			0		0
比較結果	当該追加工事	A					
	0	0				調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	40,347,632	直接工事費	40,347,632
非対象額計（－）	0		
管理費区分１	0	（橋梁、ＰＣ桁、門扉、ポンプ等購入費）	
管理費区分２，７	0	（工場原価）	
管理費区分５	0	（一般管理費等のみ対象額）	
管理費区分９	0	（間接費非対象額）	
管理費区分Ｔ	0	（直接工事費に含まれる処分費等）	
対象額　支　給　品（＋）	0		
無償貸付機械評価額（＋）	0		
現場環境改善費対象額（Ｐｉ）			
単独（追加工事）	40,347,632	現工事	0
合算工事	0		

現場環境改善費			
率（補正前）	1.18　%	0　%	0　%
施工地域等補正	市街地以外		
率（補正後）	1.18　%		
計上額	476,000	0	0

比較結果	当該追加工事	Ａ	調整工事計上額	0
	0	0		

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	695,025				
運搬費	0	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	695,025
営繕費	0	現場環境改善費	0		

共通仮設費計　5,907,025

現場管理費

単独（追加工事）純工事費	46,254,657	単独（追加工事）直接工事費	40,347,632	単独（追加工事）共通仮設費	5,907,025
非対象額計（－）	7,800				
管理費区分２，７	0	（工場原価）			
管理費区分５	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分９	7,800	（間接費非対象額）			
管理費区分Ｔ	0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械等評価額（＋）	0				
現場管理費対象純工事費					
単独（追加工事）	46,246,857	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	46,246,857		0		0
現場管理費対象純工事費	（調整工事入力で使用）				
率（補正前）	29.6 %		0 %		0 %
施工地域等補正	0 %				
施工時期補正	0 %	熱中症補正	0 %	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0 %				
砂防・地すべり補正	0 %		0 %		
率（補正後）	30.49 %	（29.6 % × 週休1.03）	0 %		
計上額	14,100,000		0		0
			2,761,245	（工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額）	
比較結果　当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

一般管理費等（当初）

事務所名	高崎河川国道事務所　工務第二課			工事番号	第 0 回変更
発注年月	令和08年02月	契約区分		主工種	舗装工事

工事原価	60,354,657						
純工事費	46,254,657	現場管理費		14,100,000	工期延長等に伴う現場維持費		0
非対象額計（－）	7,800						
管理費区分９	7,800	（支給品を除く間接費非対象額）					
管理費区分Ｔ	0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額 ）					
一般管理費等対象工事原価							
単独（追加工事）	60,346,857		現工事	0		合算工事	0
全処分費等を除く							
一般管理費等対象工事原価	60,346,857		現工事	0		合算工事	0
（調整工事入力で使用）							
前払金支出割合による補正係数	1		現工事				
財団法人等による補正係数	1						
契約保証に係る一般管理費対象工事原価	60,346,857						
契約保証に係る補正値	0.04 %						
一般管理費率							
単独（追加工事）	18.19 %		現工事	0 %		合算工事	0 %
一般管理費	10,995,343						
業務委託料等	0						
調査基準価格	71,082,000						
調査基準価格の100/110	64,620,000	(90.57 %)					

工　事　数　量　総　括　表

工 事 名　　Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事

国土交通省 関東地方整備局
高崎河川国道事務所　工務第二課

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
舗装		式		1		
道路土工		式		1		
路体盛土工		式		1		
路体(築堤)盛土 (1)	4.0m以上	m3		320		
路体(築堤)盛土 (2)	2.5m以上4.0m未満	m3		90		
路体(築堤)盛土 (3)	2.5m未満	m3		180		
土砂等運搬	土砂(岩塊･玉石混り土含む)	m3		650		
積込(ﾙｰｽﾞ)	土砂 土量50,000m3未満	m3		650		
法面整形工		式		1		
法面整形(盛土部)	法面締固め有 現場制約無	m2		240		
舗装工		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工(ICT)		式		1		
下層路盤(車道・路肩部)(ICT)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 200mm	m2		1,930		
上層路盤(車道・路肩部)(ICT)	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 200mm	m2		1,930		
上層路盤(車道・路肩部)	再生瀝青安定処理材(40) 仕上り厚 80mm	m2		1,930		
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度ｱｽｺﾝ(20) 舗装厚 50mm 3.0m超	m2		1,930		
中間層(車道・路肩部)	各種(2.30以上2.40t/m3未満) 粗粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物ﾎﾟﾘﾏｰ改質Ⅱ型(20) 舗装厚 50mm 3.0m超	m2		1,930		
透水性舗装工		式		1		
ﾌｨﾙﾀｰ層	再生砂 仕上り厚 100mm	m2		694		
下層路盤(歩道部)	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40 仕上り厚 100mm	m2		694		
表層	開粒度アスコン（１３）　2.4m以上 舗装厚 40mm	m2		694		
ｶﾙﾊﾞｰﾄ工		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｶﾙﾊﾞｰﾄ工		式		1		
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾎﾞｯｸｽ	内幅 0.3m 内高 0.3m	m		14		
排水構造物工		式		1		
側溝工		式		1		
管(函)渠型側溝 (1)	幅 25ｃｍ 高さ 37.5ｃｍ	m		107		
管(函)渠型側溝 (2)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ	m		110		
管(函)渠型側溝 (3)	幅 30ｃｍ 高さ 45ｃｍ（中央分離帯）	m		29		
管渠工		式		1		
暗渠排水管	据付 直管 200～400mm	m		3		
集水桝･ﾏﾝﾎｰﾙ工		式		1		
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (1)	卵形側溝用桝 300用	箇所		2		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (2)	卵形側溝用桝 350用	箇所		3		
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ街渠桝 (3)	卵形側溝用桝 350用（中央分離帯）	箇所		1		
現場打ち集水桝	700×700×1000 18-8-25(高炉) 法面作業補正無	箇所		1		
蓋	ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋 700×700 車道用	枚		1		
防草ｺﾝｸﾘｰﾄ		式		1		
張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25（高炉）W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	m2		220		
縁石工		式		1		
縁石工		式		1		
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (1)	180/230×250×600　両面R	m		229		
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (2)	180/210×300×1000 片面R 防草タイプ	m		200		
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (3)	180/210×250×1000 片面R	m		29		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ (4)	180/210×250×1000 片面R	m		1		
中央分離帯工	t=70	式		1		
張りｺﾝｸﾘｰﾄ	各種 18-8-25（高炉）W/C指定なし ｺﾝｸﾘｰﾄ夜間割増無	m2		102		
防護柵工		式		1		
防止柵工		式		1		
転落(横断)防止柵	柵高 1.1m 土中建込	m		230		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員		式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
共通仮設費		式		1		
技術管理費		式		1		
六価ｸﾛﾑ溶出試験		式		1		
ｼｽﾃﾑ初期費(ICT)		式		1		
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ作成費用		式		1		
現場環境改善費（率計上）		式		1		
共通仮設費（率計上）		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事　　（ 当　　初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事

（　当　　初　）　請負工事費計算書

(1)直接工事費	40,347,632		
(2)共通仮設費	5,907,025		
(3)純工事費 (1)+(2)	46,254,657		
(4)現場管理費	14,100,000		
(5)工期延長等に伴う現場維持等の費用	0	(16)工場製作純工事費	0
		(17)工場管理費	0
(6)工事原価 (3)+(4)+(5)+(18)	60,354,657	(18)工場製作原価 (16)+(17)	0
(7')一般管理費等(計上額)	10,995,343	((7)一般管理費等(計算額)	11,001,232)
(8')その他費目計	0		
(9)業務委託料等	0		
(10)工事価格 (6)+(7')+(8')+(9)（万円未満切り捨て）	71,350,000		

(11)消費税相当額	7,135,000
(12)請負工事価格 (10)+(11)	78,485,000
(13)入札書比較価格 (請負工事費の100/110)	71,350,000
(14)調査基準価格	71,082,000
(15)調査基準価格の100/110 (万円未満切り捨て)	64,620,000

令和７年度

Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事

特記仕様書

令和８年２月

国土交通省　関東地方整備局

高崎河川国道事務所

第 1 編　共 通 編

第１章　総　　則

第１条　適　　用

１．この特記仕様書は、関東地方整備局 土木工事共通仕様書(令和７年度版)(以下「共通仕様書」という。)でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。

２．この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。

３．この特記仕様書に添付されていない別紙様式等については以下 URL よりダウンロードするものとする。

（URL「https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000015.html」）

４．本工事における「条件明示」については、別紙－１「明示項目及び明示事項」に記載のとおりとする。

第２条　主任技術者等

本工事の主任技術者又は監理技術者は、受注者が提出した競争参加資格確認申請書に記述した配置予定の技術者でなければならない。

第３条　主任技術者等の専任期間

１．契約締結日の翌日から工事の始期までの期間については、主任技術者又は監理技術者の配置を要しない。

２．契約締結日の翌日から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。

３．工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続後、後片付け等のみが残っている期間については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日（例：「完成通知書」等における日付）とする。

４．主任技術者又は監理技術者が技術研鑽のための研修、講習、試験等で短期間工事現場を離れる場合は、適切な施工ができる体制を確保したうえで、監督職員の承諾を得るものとする。

第４条　専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者の配置

１．本工事において、建設業法第２６条第３項第一号の規定の適用を受ける監理技術者又は主任技術者（以下、「専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。なお、詳細な運用は「監理技術者制度運用マニュアル」による。）

（１）各工事の請負金額が１億円未満（建築一式工事の場合は２億円未満）であること。

（２）工事現場間の距離は、１日で巡回可能かつ移動時間が概ね２時間以内であること。
（３）下請次数は３次までであること。
（４）現場に連絡員（※）を配置していること。
※連絡員とは、監理技術者又は主任技術者との連絡その他必要な措置を講ずるための者をいう。
※土木一式工事又は建築一式工事の場合は、当該建設工事の種類に関する実務経験を１年以上有する者であること。
（５）施工体制を確認出来る情報通信技術の措置を講じていること。
（６）人員の配置を示す計画書の作成及び現場に備え置いていること。
（７）現場状況を確認するための情報通信機器を設置していること。
（８）監理技術者又は主任技術者が兼務できる工事数は２件までであること。なお、専任特例２号の場合の監理技術者を活用した工事と兼務することは出来ない。
（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるものについては、これら複数の工事を一の工事とみなす。）

２．現場の安全管理体制について、平成７年４月２１日付基発第２６７号の２「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とすること。」とされていることから、施工体制に留意すること。

３．本工事の監理技術者又は主任技術者が専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者として配置する事を予定している場合、以下の書類を提出すること。
１）専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者が兼務する工事の箇所、内容を示す書類（ＣＯＲＩＮＳの写し）

４．本工事の監理技術者又は主任技術者が専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者として兼務する事となった場合、第１項（３）～（６）について施工計画書、施工体系図等へ記載し、提出すること。

５．本工事において、専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は、コリンズ（ＣＯＲＩＮＳ）への登録・修正を適切に行うこと。

第５条　専任特例２号の場合の監理技術者の配置

１．本工事において、建設業法第２６条第３項第二号の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「専任特例２号の場合の監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。
（１）建設業法第２６条第３項第二号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
（２）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第２７条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例２号の場合の監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
（３）監理技術者補佐は、直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
（４）同一の専任特例２号の場合の監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に２件までとする。なお、専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者を活用した工事

と兼務することは出来ない。

（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるものについては、これら複数の工事を一の工事とみなす。）

（５）専任特例２号の場合の監理技術者が兼務できる工事は群馬県内の工事でなければならない。

（６）専任特例２号の場合の監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。

（７）専任特例２号の場合の監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。

（８）監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。

２．現場の安全管理体制について、平成７年４月２１日付基発第２６７号の２「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とすること。」とされていることから、施工体制に留意すること。

３．本工事の監理技術者が専任特例２号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事を予定している場合、以下の書類を提出すること。

１）監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者の合格証の写しなど）

２）監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類（監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料（いずれも写し可））

３）専任特例２号の場合の監理技術者が兼務する工事の箇所、内容を示す書類（ＣＯＲＩＮＳの写し）

４．本工事の監理技術者が専任特例２号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事となった場合、第１項（５）～（８）について施工計画書へ記載し、提出すること。

５．本工事において、専任特例２号の場合の監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は、コリンズ（ＣＯＲＩＮＳ）への登録・修正を適切に行うこと。

第６条　コリンズ（CORINS)への登録

１．工事カルテの作成、登録については、土木工事共通仕様書「１－１－１－７コリンズ（CORINS）への登録」によるものとする。

２．受注者は、工事受注後又は施工中において当該工事に係る悪質で不誠実な行為（一括下請負等）が発覚し、指名停止の措置を受けた場合は、登録済みの工事カルテの取り下げを行うものとする。

３．技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）

第７条　コリンズ（CORINS)への位置情報の入力

土木工事共通仕様書１－１－１－７コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標（緯度、経度）を記載するものとする。なお、座標は、世界測地系（JGD202

4）に準拠する。

起点　群馬県伊勢崎市赤堀今井町　緯度３６°２２’５４”　経度１３９°１２’４０”

終点　群馬県伊勢崎市赤堀今井町　緯度３６°２２’５８”　経度１３９°１２’４２”

第８条　コリンズ（CORINS)への工事概要の入力

土木工事共通仕様書１－１－１－７コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を受注時に作成するにあたり、工事概要について必須登録とし、記載例を参考にすること。

記載例）

本工事は、一般国道５０号前橋笠懸道路における舗装工事である。

【工事概算数量】

道路土工	1 式
路体(築堤)盛土	590 m3
積込(ルーズ)	650 m3
法面整形(盛土部)	240 m3
アスファルト舗装工(ICT)	
車道・路肩部	1,930 m2
歩道部	694 m2
カルバート工	1 式
排水構造物工	1 式
縁石工	1 式
防護柵工	1 式
仮設工	1 式

第９条　コリンズ（CORINS)への設計業務名及びテクリス番号の入力

土木工事共通仕様書１－１－１－７コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、設計業務名およびテクリス番号を登録すること。設計業務名およびテクリス番号については以下のとおりとする。

記載例）

コリンズへ登録する業務名およびテクリス番号

業　務　名	テクリス番号
Ｒ６国道５０号前橋笠懸道路詳細修正設計他業務	4058281460
Ｒ５前橋笠懸道路他設計業務	4055492527
Ｒ５国道５０号前橋笠懸道路詳細修正設計業務	4053922397
Ｒ３前橋笠懸道路詳細設計他業務	4048277352
Ｈ３１前橋笠懸道路詳細修正設計他業務	4037218261

第１０条　施工体制台帳

工事成績優秀企業に認定され、認定有効期限内に、工事発注の契約を行った工事の監理技術者、主任技術者（工事成績優秀企業に認定された下請負を含む）は、工事成績優秀企業認定マークの使用や金色帯線（黄色もしくは橙色の帯線でも可）を名札上部に印刷する

ことが出来るものとする。

注1:用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注2:所属会社の写真とする。

第１１条　調査・試験に対する協力（低入札価格調査制度調査対象工事について）

１．予算決算及び会計令第８５条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、受注者は下記の調査に協力しなければならない。

（１）受注者は、下請負者の協力を得て間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の作成を行い、工事完了後、速やかに発注者に提出するものとする。

（２）受注者は、提出された間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、受注者は下請負者についてもヒアリングに参加させるものとする。

（３）工事コスト調査（調査結果でも可）に係る資料は、下記のとおりとし、関東地方整備局又は高崎河川国道事務所のホームページにより公表する。

（４）低入札価格調査と工事コスト調査の結果に大きな乖離がある場合、又は、工事コスト調査資料の提出が無い場合には、工事成績評点を減点する場合がある。

なお、低入札価格調査対象工事については、工事コスト調査終了後に、工事成績評点を通知する。

公表資料は以下のとおり。

資　料　名	内　訳
低価格理由とその詳細	当該工事が低価格で施工可能となる理由を示した資料
比較表－1	積算内訳書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－２	積算内訳書に対する明細書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－３	元請の手持ち資材の当初と実績の比較表
比較表－４	元請の資材購入先一覧の当初と実績の比較表
比較表－５	手持ち機械の当初と実績の比較表
比較表－６	労務者確保計画の当初と実績の比較表
比較表－７	工種別労務者配置計画の当初と実績の比較表
比較表－８	建設副産物の搬出の当初と実績の比較表

諸経費動向調査（工事費）	元請、下請の工事費内訳

第１２条　不具合等発生時の措置

受注者は、工事施工途中に工事目的物や工事材料等の不具合等が発生した場合、又は公益通報者等から当該工事に関する情報が寄せられた場合には、その内容を監督職員に直ちに通知しなければならない。

第１３条　工事書類の作成

１．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類作成マニュアル（令和７年３月）」に基づき実施するものとする。

２．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類スリム化ガイド（令和７年３月）」を参考に書類の電子化、受発注者間での作成書類の役割分担の明確化、書類の削減等に留意すること。

３．「工事関係書類一覧表」（別紙様式－１５）により、工事着手前に「作成書類の役割分担」、「作成書類の位置付け」に関して「協議」するものとする。
また、「協議」の内容を変更する場合は、改めて、受発注者で協議を行うものとする。

４．電子により提出、提示した書類については、検査時その他の場合においても紙での提示、提出は行わないものとする。

第１４条　設計図書の照査

発注者は、設計図書の照査の範囲を超える資料の作成については、監督職員の指示とし、その作成費用は、設計変更の対象とする。なお、設計変更の対象については、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和７年３月」によるものとする。

第１５条　情報共有システムの活用

１．本工事は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの活用対象工事である。なお、活用にあたっては「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」（令和７年３月版）に基づき実施すること。

２．受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、使用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。
・工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件（Rev５．７）令和７年３月版国土交通省（国土技術政策総合研究所）

３．監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーＩＤ数、ディスク容量等の仕様やワークフロー機能の対象者等については、監督職員の確認を得た上で決定すること。

４．受注者は、サービス提供者と次の内容を含めた契約を締結するものとする。
①情報共有システムに関する障害を適正に処理、解決できる体制を整える旨
②サービス提供者が善良なる管理者の注意をもってしても防御し得ない不正アクセス等により、情報漏洩、データ破壊、システム停止等があった場合、速やかに受注者に連絡を行い適正な処置を行う旨
③②の場合において、サービス提供者に重大な管理瑕疵があると監督職員若しくは受注

者が判断した場合、又は復旧若しくは処理対応が不適切な場合には、受注者はサービス提供者と協議の上情報共有システムの利用を停止することができる旨

５．受注者は、監督職員等から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第１６条　設計・施工技術連絡会議（三者会議）の設置

本工事は、「設計・施工技術連絡会議（三者会議）」（ 以下、「三者会議」という。）の対象工事では無いが、受注者から「三者会議」の開催を要請した場合、明らかに会議開催の必要性が乏しいと判断される場合を除き、公共工事の品質確保及び円滑な事業執行を目的として、発注者、設計者、施工者（工事受注者）の三者が工事着手前等において一堂に会して、事業目的、設計思想・条件等の情報の共有及び施工上の課題、新たな技術提案に対する意見交換等を行う「三者会議」を開催するものとする。

受注者は、「三者会議」の開催を要請する場合、監督職員と協議するものとする。

「三者会議」の運用にあたっては、「設計・施工技術連絡会議（「三者会議」） 運用方針」（http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html）によるものとする。

第１７条　設計審査会の設置

本工事は、発注者と受注者が一堂に会して、現場着手前（準備期間内）に工事工程クリティカルパスの共有及び工事工程の照合（クロスチェック）を実施し、併せて協議資料作成等の受発注者間の役割分担を明確にする場、また、設計変更手続きの透明性と公正性の向上及び迅速化のため、設計変更の妥当性の審議及び設計変更等に伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「設計審査会」（以下、「審査会」という。）の設置対象工事である。「審査会」の運用にあたっては、「設計審査会設置運用方針」（http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html）によるものとする。

第１８条　工事環境の改善

本工事の実施にあたっては、工事環境の改善に取り組むウィークリースタンスを考慮するものとする。

ウィークリースタンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html に掲載している工事環境改善実施要領に基づき、監督職員と確認・調整した内容について取り組むものとする。

第１９条　ワンデーレスポンス

１．この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。

・「ワンデーレスポンス」とは

受注者からの質問、協議等への回答は、基本的に「その日のうち」に指示、通知等を行うよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」に通知することである。

２．受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。

３．受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は、速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

４．ワンデーレスポンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html に掲載しているワンデーレスポンス実

施の手引き（令和５年１２月）に基づき、取り組むものとする。

５．効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

第２０条　契約内容の変更手続きについて

本工事における契約内容の変更は、以下によるものとする。

①本工事における設計変更や契約変更は書面に基づき行うことを徹底し、指示書・協議書があるもののみを契約変更の対象とする。

②受注者は、工事期間中及び工事完成後において、監督職員から契約図書の規定に違反する等の不適切な指示を受けたと思料されるときは、当該監督職員を経由せずに、事務所長へ直接又は契約担当課長経由で書面により、その旨を報告することができる。

第２１条　設計図書の変更

設計変更等については、契約書第１８条から第２５条及び共通仕様書共通編１－１－１－１６から１－１－１－１８に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和７年３月」によることとする。

第２２条　契約変更手続きの透明性を確保するための第三者による適正性チェックの試行

１．本工事は、契約変更手続きの透明性を確保するため、契約変更前に必要に応じて第三者による適正性チェックを実施する試行工事である。

２．第三者による適正性チェックの実施は、発注者が対応するものとし、実施にあたっては、既存資料等による実施に努め、過度な資料作成は行わないものとする。

第２３条　スライド条項

工事請負契約書第２６条（スライド条項）については、物価水準の変動により請負代金が不適当となったと認められた時に、相手方に請負代金の変更を請求することができる条項となっている。

単品スライドについては、鋼材類・燃料油の他、コンクリート類、購入土などの主要工事材料も対象となるので、物価水準の変動により請負代金が不適当となった場合には、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。

第２４条　再生資材の活用

受注者は下記の資材の使用に際し、再生資材を利用するものとする。

資　材　名	規　格	備　考
再生瀝青安定処理材(40)	As 量 4.0%瀝青安定処理再生	舗装工
再生加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(20)	As 量 5.0%粗粒再生	
再生クラッシャーラン	RC-40	舗装工、構造物基礎
再生砂	Rs	舗装工

なお、使用に際し「舗装再生便覧」等を遵守するものとする。

上記に示す再生コンクリート砂の使用箇所は、透水性を有し、浸透した水が土壌又は公共用水域へ拡散するおそれのある箇所であることから、六価クロムについて、土壌の汚染に係

る環境基準に適合していなければならない。確認方法は、平成３年８月２３日付け環境庁告示４６号に規定される測定方法に基づき実施するものとする。また、測定試料は再生コンクリート砂製品を直接使用し、１購入先当たり１検体の測定試験を実施するものとする。

第２５条　特定建設資材の分別解体等の再生資源化等

１．本工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（(平成１２年法律第１０４号最終改正令和４年６月１７日法律第６８号)。以下「建設リサイクル法」という。）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「８解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情により予定した条件により難い場合は監督職員と協議するものとする。

（１）分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工　程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ■有　　□無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有　　□無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 ■有　　□無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ■有　　□無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有　　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥その他 （　舗装　）	その他の工事 ■有　　□無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用

２．受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第１８条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン（平成１４年５月）」に定めた様式１〔再生資源利用計画書（実施書）〕及び様式２〔再生資源利用促進計画書（実施書）〕を兼ねるものとする。

・再資源化等が完了した年月日
・再資源化等をした施設の名称及び所在地
・再資源化等に要した費用

３．工事発注後に明らかになった事情により予定していた条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第２６条　建設リサイクル法第１１条通知の徹底

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成１２年５月３１日法律第１０４号）第１１条に基づく、都道府県知事に対する通知を行った旨の書面を監督職員より受領した後に、工事着手（建設リサイクル法第１０条第１項に規定する工事着手をいう。）するものとする。

なお、これによりがたい場合は監督職員と協議の上決定するものとする。

第２７条　コンクリート副産物から再生された資源について

１．コンクリート副産物から再生された資材を利用する場合には、「コンクリート副産物の再生利用に関する用途別品質基準」によるものとする。

２．受注者は、コンクリート副産物から再生された資材の利用を希望する場合は、工事着手時にその適用の有無を監督職員と協議するものとする。

３．受注者は、工場が発行する再生骨材コンクリートの配合計画書及び納入書を整備および管理し、監督職員または検査職員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。

４．受注者は、再生骨材コンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5022（再生骨材Ｍを用いたコンクリート）、JIS A 5023（再生骨材Ｌを用いたコンクリート）により実施しなければならない。また、再生骨材Ｍを用いたプレキャストコンクリート製品の検査については、JIS A 5365（プレストキャストコンクリート製品－検査方法通則）により実施しなければならない。なお、生産者等に検査のため試験を代行させる場合は受注者がその試験に臨場しなければならない。

５．再生骨材コンクリートの配合については、「土木工事共通仕様書第１編３－３－３配合」に従うものとする。

第２８条　工事完成図

本工事は、道路工事完成図等作成要領（第２版）（国土技術政策総合研究資料、平成２０年１２月）に基づく電子納品対象工事である。

(http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html)

第２９条　工事完成図の作成、納品

完成図等の作成について

受注者は、「道路工事完成図等作成要領（国土技術政策総合研究所資料、平成２０年１２月）」に基づいて作成した電子データを、電子媒体で提出しなければならない。

受注者は、本要領に基づき、国土技術政策総合研究所がホームページ上に無償で公開している本要領に対応したチェックプログラムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策を実施した上で出力資料を含む（別紙等での提出も可能）電子データを提出しなければならない。

提出資料

【電子データ（ＣＤ入り）】

・完成平面図 SXF データ（.Ｐ２１）

・完成縦断図 SXF データ（.Ｐ２１）

・完成平面図：属性 XML データ（拡張子 .saf）

【出力資料（道路工事完成図等作成要領ｐ７３参照）】

・チェック結果記録

・完成平面図
・完成縦断図
・「完成平面図」チェック結果記録
・道路工事完成図等チェックプログラム結果ログ
なお、作成に要する費用については、当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第３０条　施工管理

１．本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値(令和７年度版)によるものとする。なお、この管理基準により難い場合及び基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。
２．本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準(令和７年度版)によるものとする。なお、「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。
３．本工事の施工管理における適用工種毎の基準類は、ＩＣＴ活用工事実施要領(令和７年３月改定)の関連要領等一覧（ＵＲＬ「https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html」）によるものとする。

第３１条　デジタル工事写真の小黒板情報電子化について

デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事では、以下の１．から４．の全てを実施することとする。

１．対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、関東地方整備局土木工事写真管理基準（令和７年度版）（以下、写真管理基準）「２－２撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。

なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」（URL「https://www.cryptrec.go.jp/list.html」）に記載している技術を使用していること。

また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア，（一社）施工管理ソフトウェア産業協会，〈https://www.jcomsia.org/kokuban〉.

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

２．デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入

受注者は、同条１．の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目

は、写真管理基準（令和６年３月）「２－２撮影方法」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

３．小黒板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準（令和５年３月）（以下、デジタル写真管理情報基準）に準ずるが、同条２．に示す小黒板情報の電子的記入については、写真管理基準「２－５ 写真編集等」及びデジタル写真管理情報基準「６.写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

４．小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、同条２．に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は改ざん検知機能（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。

なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

また、下記のチェックツールを使用して信憑性確定を行い、結果を出力したものでもよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール（一社）施工管理ソフトウェア産業協会

〈http://www.jcomsia.org/kokuban〉

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を実施しない工事写真がある場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得ること。

第３２条　ＩＣＴ活用工事（舗装工）について

１．ＩＣＴ活用工事

本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図ため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。

２．定義

（１）i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。

（２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ＩＣＴ施工技術を全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。

対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事、または舗装を含む工事とする。

①３次元起工測量

②３次元設計データ作成

③ＩＣＴ建設機械による施工

④３次元出来形管理等の施工管理
⑤３次元データの納品

３．受注者は、舗装工以外の工種にＩＣＴ施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下４～８によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。

４．原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし舗装工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ施工技術の活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。

５．ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。

①　３次元起工測量

受注者は、３次元測量データを取得するため、以下１）～４）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事及び設計段階での３次元データが活用できる場合においては、監督職員と協議の上、管理断面及び変化点の計測による測量が効率的と判断された場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、ＩＣＴ活用工事とする。

１）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
３）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量
４）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量

②　３次元設計データ作成

受注者は、５．①で得られた測量データと発注者が貸与する発注図データを用いて、ＩＣＴ建設機械による施工及び３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。

③　ＩＣＴ建設機械による施工

５．②で作成した３次元設計データを用い、以下に示すＩＣＴ建設機械により、施工を実施する。

１）３次元ＭＣ建設機械※

※ＭＣとは「マシンコントロール」の略称である。

建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する３次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。

但し現場条件により、③ＩＣＴ建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に３次元設計データ等を活用するものとする。

④　３次元出来形管理等の施工管理

５．③による施工管理において、以下のとおり出来形管理を行うものとする。

（１）出来形管理

出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、１ｍ間隔以下（１点　㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、３次元設計データと計測した各

ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）とし、以下１）２）から選択（複数以上可）して実施するものとする。
また、舗装工における出来形管理にあたっては、以下１）～２）を原則とするが、現場条件等により以下３）～４）の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。
１）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
３）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理
４）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合及び降雪・積雪等により面管理が実施できない場合は、監督職員と協議の上、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもＩＣＴ活用工事とする。
なお、表層以外については従来手法（出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目）での管理を実施してもよい
⑤ ３次元データの納品
５．①②④により作成した３次元データを工事完成図書として電子納品する。

６．上記５．①～④の施工を実施するために使用するＩＣＴ機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。また、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。

７．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。

８．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

第３３条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。
なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。

第３４条　ＩＣＴ活用工事の費用について

１．受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工及び付帯設備設置工に関するＩＣＴ施工技術の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき各段階を設計変更の対象とする。
・ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領
なお、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」及び「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」の費用計上の考え方は以下のとおりである。
（１）３次元起工測量・３次元設計データの作成費用

３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

なお、受注者から見積の提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

（２）３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用

出来形管理の計測範囲において、１ｍ間隔以下（１点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、３次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、３次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。

なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。

また、受注者から見積の提出がない場合は、３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。

・共通仮設費率補正係数：１．２

・現場管理費率補正係数：１．１

上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）２）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。

１）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理

２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ活用について発注者へ提案・協議を行う。また、舗装工についてもＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ＩＣＴ活用の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とする。

２．施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。

第３５条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査

ＩＣＴ活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。

施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。

調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第３６条　現場環境改善（快適トイレの設置）

１．内 容

受注者は、現場に以下の（１）～（１１）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。（１２）～（１７）については、満たしていればより快適に使用出来ると思

われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

（１）洋式（洋風）便器

（２）水洗及び簡易水洗機能（し尿処理装置付き含む）

（３）臭い逆流防止機能

（４）容易に開かない施錠機能

（５）照明設備

（６）衣類掛け等のフック、又は、荷物の置ける棚等（耐荷重を５kg 以上とする）

【付属品として備えるもの】

（７）現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示

（８）周囲からトイレの入口が直接見えない工夫

（９）サニタリーボックス（女性用トイレに必ず設置）

(10) 鏡と手洗器

(11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

(12) 室内寸法９００mm×９００mm 以上（面積ではない）

(13) 擬音装置（機能を含む）

(14) 着替え台

(15) 臭気対策機能の多重化

(16) 室内温度の調整が可能な設備

(17) 小物置き場（トイレットペーパー予備置き場等）

２．快適トイレに要する費用

快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。

受注者は、上記１の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。【快適トイレに求める機能】（１）～（６）及び【付属品として備えるもの】（７）～（１１）の費用については、従来品相当を差し引いた後、５１，０００円/基・月を上限に設計変更の対象とする。

なお、設計変更数量の上限は、男女別で各１基ずつ２基／工事（施工箇所）※までとする。

また、運搬・設置費は共通仮設費（率）に含むものとし、２基／工事（施工箇所）※より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費(率)を想定しており、別途計上は行わない。

※「施工箇所が点在する工事の積算」適用工事や施工延長が長いなどのトイレを施工箇所に応じて複数設置する必要性が認められる工事については「工事」を「施工箇所」に読み替え、個々の施工箇所で計上できるものとする。

３．快適トイレの「質の向上」に要する費用

快適トイレの「質の向上」として、積算上限額を超える費用について現場環境改善費（率）を充当することができる。現場環境改善費（率）の充当を希望する場合は、上記２．の協議時に見積書を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとする。

なお、現場環境改善費（率）を充当することにより、特記仕様書に明示されたその他の費目の実施が困難な場合には、実施費目数の変更を合わせて協議することとする。

４．その他

快適トイレの手配が困難の場合は、監督職員と協議の上、本条項の対象外とする。

第３７条　BIM/CIM 適用工事について

本工事は、BIM/CIM 適用工事（受注者希望型）である。

受注者が希望する場合、３次元モデルの活用を提案することができる。詳細については、受発注者で協議し実施する。

（参考）３次元モデル作成の目安

詳細度	２００～３００程度※1 ※1　構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報	３次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する。（BIM/CIM 取扱要領「付属資料２　オブジェクト分類」を参照）。

１．BIM/CIM 実施計画書の作成

受発注者において、BIM/CIM の実施内容や、納品方法等を協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、提出する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本工事を実施する。

１）工事概要

２）整理すべき課題

３）BIM/CIM の実施内容（３次元モデルの活用内容、期待する効果等）

４）３次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された３次元モデルの仕様等）

５）３次元モデル作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類

６）３次元モデル閲覧、データ共有ができるソフトウェアの種類、成果物の納品ファイル形式

７）３次元モデルの作成・活用に要する費用

２．BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づき実施した内容について、BIM/CIM 実施報告書を作成する。以下の内容を BIM/CIM 実施計画書に追記して作成する。

８）後段階への引継事項（データかつ用事の留意点、更なる検討が必要な内容、２次元図面との整合等）

９）省人化の効果（前段階から引き継いだデータの活用により省人化した効果、３次元での検討により省人化した効果等）

３．成果物の納品

以下の内容を納品する。様式については別添資料を参照すること。

１）BIM/CIM 実施計画書・見積書（変更含む）

２）BIM/CIM 実施報告書（３次元モデル作成引継書シート、３次元モデル照査時チェックシートを含む）

３）作成した３次元モデル（オリジナルデータ、標準的なデータ形式（J-LandXML 形式、IFC 形式）、統合モデル、動画等）

４．その他

最新の情報は BIM/CIM ポータルサイト（https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/bimci

mindex.html）で提供されているので、適宜参照すること。

第３８条　ＤＸデータセンターの使用

本工事はＤＸ データセンターを使用することで、ＶＤＩ による専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る工事である。

３次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、国土技術政策総合研究所が運用するＤＸ データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。

ＤＸデータセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとする。

なお、ＤＸデータセンターの詳細については、ＤＸデータセンターの参考資料（https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference/）及びポータルサイト（https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/）を参照すること。

第３９条　工事中の安全確保

１．工事の施工にあたっては、関東地方整備局長が定める「重点的安全対策」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。

なお、令和７年度における重点的安全対策項目は以下の７項目である。

Ⅰ．架空線等上空施設の損傷事故防止

Ⅱ．建設機械等の稼働に関連した人身事故防止

Ⅲ．資機材等の下敷きによる人身事故防止

Ⅳ．足場・法面等からの墜落事故防止

Ⅴ．地下埋設物の損傷事故防止

Ⅵ．第三者の負傷・第三者車両等に対する損害

Ⅶ．事故防止

２．受注者は、工事に従事する就業制限業務及び作業主任者を選任する業務における資格者のうち、資格取得後一定期間経過した資格者に対し、次に掲げる再教育の受講が推進されるよう努めるものとする。

①労働安全衛生法第１９条の２に基づく足場組立等作業主任者等に対する能力向上教育

②労働安全衛生法第６０条の２に基づく車両系建設機械運転従事者、移動式クレーン運転士、玉掛業務従事者等に対する危険有害業務従事者教育

③厚生労働省通達に基づくドラグ・ショベル運転業務従事者等に対する危険再認識教育

３．工事の施工にあたっては、工事等の時期、工事等の方法の概要及び工事等を行う場合における道路交通に対する措置について「道路工事保安施設設置基準（案）（令和６年２月）」に基づき監督職員へ確認を行うものとする。

４．工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については、監督職員の承諾を得るものとする。

５．工事期間中に配置する交通誘導警備員は、以下のとおり計上するものとする。ただし、交通管理者等との協議条件など社会的要件、現地精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

工　種	作業区分	交通誘導警備員	備　考
全ての工種	昼間作業	８９人（うち有資格誘導員０人）	
合計		８９人（うち有資格誘導員０人）	

第４０条　熱中症対策に資する現場管理費の補正

１．本工事は、夏季における真夏日などの気候状況を考慮し、工事現場の熱中症対策に掛かる経費に関して「熱中症対策に資する現場管理費の補正」を行う試行工事である。

２．真夏日の考え方は下記のとおりである。

（１）真夏日の定義

日最高気温が３０℃以上の日を指す。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が３０℃以上の場合とする。

（２）試行にあたっての真夏日の計上の考え方

下記①～③のいずれかに該当する場合、真夏日として計上する。

①環境省が公表している暑さ指数（WBGT）が日最高２５℃以上の場合。

施工現場から最寄りの環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）が２５℃以上となる日を、真夏日とみなす。

②気象庁が公表している地上気象観測所の日最高気温が３０℃以上の場合。

施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温が３０℃以上の日を、真夏日とする。

③夜間工事については、作業時間帯の最高気温が３０℃以上の場合。

施工現場から最寄りの観測地点における作業時間帯の最高気温が３０℃以上、又は暑さ指数（WBGT）が２５℃以上の場合を真夏日とする。

なお、休工日においては、上記に該当した場合でも真夏日としない。

上記①～③によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

（３）工期

工事着手から工事完成日までの期間を指す。なお、年末年始休暇６日間、 夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

（４）基準日

受発注者協議により、「基準日」を定めるものとする。「基準日」は工事着手日を基本とする。

当該「基準日」より工期末までの期間のうち、真夏日にあたる日数を算出する。

なお、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、現場休工日は含まないものとする。

（５）真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

・真夏日率 ＝ 基準日から工期末までの真夏日 ÷ 工期

（６）現場管理費の補正

現場管理費の補正は、工期中の日最高気温の状況に応じて補正値を算出し、現場管理費率に加算する。

なお、補正は変更契約において行うものとする。

・補正値（％） ＝ 真夏日率 × 補正係数※

※ 真夏日補正係数：１．２

第４１条　安全管理推進技術者等認定について

１．概要

関東地方整備局（港湾・空港部・営繕部関係を除く）が発注した工事（以下、「直轄工

事」という）において、無事故で完成させた技術者に対して、「安全管理推進技術者」（以下、「認定技術者」という）として認定する。

２．認定条件

対象とする技術者は、以下の条件によって認定する。

・直轄工事において、無事故にて完成させた「安全管理担当者」として、施工期間中、全ての工事（準備工を除く）に従事した者。なお、「安全管理担当者」とは、施工体制上、受注者が配置する「統括安全衛生責任者」、「元方安全衛生管理者」、「ずい道等救護技術管理者」、「店社安全衛生管理者」、「工事現場責任者」として安全管理に従事した者で、現場代理人または、主任（監理）技術者が兼務した場合も認定するものとする。

・直轄工事にて、認定技術者として過去５回認定された者については、「優秀安全管理推進技術者」（以下、「優秀認定技術者」という）として認定する。

３．認定技術者の認証

・認定技術者及び優秀認定技術者に認定された者については、「安全管理推進技術者認定ロゴマーク」（以下、「認定ロゴマーク」という）を「企業の名刺」、「ヘルメット貼付」等に使用（印刷、シール）することができる。

・紛失等による認定書の再発行は行わない。

・「認定ロゴマーク」については、当該地方整備局管内で行う直轄工事のみに使用でき、それに要する費用は、当該企業が負担するものとする。

４．認定技術者の認証期間

認定技術者へ授与した認証については、その使用期間に制限を設けないものとする。

５．不適切事項への措置による認証の取り扱い

認定技術者が関係する工事にて、粗雑工事等の発覚より、関東地方整備局から措置（指名停止、文書注意、口頭注意）を受けた場合であっても、過去の認証の取り消しは行わない。ただし、工事完成後、安全管理に関して不適切な事象が発覚した場合、または、不正による認定取得が確認された場合については、認定を取り消す。

第４２条　交通誘導警備員の資格

交通誘導警備員については、資格者（警備業法第２３条に規定する都・県公安委員会の行う１級又は２級検定に合格した者）又は、経験者１年以上の者を配置すること。

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第４３条　交通規制日数の報告

現道上での（改築・維持修繕）工事等により交通規制を実施した場合には、月毎に実交通規制日数を監督職員へ提出するものとする。

第４４条　特定調達品目調達実績の調査について

受注者は、本工事の資材、建設機械の使用にあたっては、必要とされる強度や耐久性、機能の確保等に留意しつつ、環境物品等の調達の推進に関する基本方針に定められた国土交通省の特定調達品目（以下、「特定調達品目」という）の使用を積極的に推進するものとする。設計図書に定めがあるものについて、特定調達品目への変更が可能である場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

ただし、東日本大震災の影響により、特定調達品目の使用が困難な場合には、監督職員と協議するものとする。

受注者は、特定調達品目の調達実績の集計を行い、工事完了後に、電子データにより監督職員に提出するものとする。集計の方法については、監督職員より指示する。

第４５条　環境対策（建設機械の使用）

受注者は、本工事において「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」（昭和６２年３月３０日建設省経機第５８号）に基づき低騒音型建設機械の使用原則を図られた場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」（平成９年建設省告示第１５３６号、最終改正平成１３年国土交通省告示４８７号）に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。

第４６条　交通安全管理

受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

１．積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
２．さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
３．過積載車輌、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載等を助長することのないようにすること。
４．取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行った場合、さし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
５．建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
６．以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第４７条　特殊車両通行許可関係図書の確認及び提出

共通仕様書１－１－１－３６交通安全管理第１４項における道路法第４７条の２に基づく通行許可の確認は、下記について実施するものとする。また監督職員からの求めがあった場合には確認結果等を提示しなければならない。

①当該車両に関する特殊車両通行許可証
②現場到着地点及び現場出発時における荷姿（荷姿全景、ナンバープレート等通行許可証と照合可能な写真を撮影しておくこと）
③車両通行記録計（タコグラフ）（夜間走行条件の場合のみ）

なお、当該車両の特殊車両通行許可証については、当該経路に関する部分の写しを、共通仕様書１－１－１－３９官公庁等への手続等第３項に基づき、監督職員へ提示するものとする。

第４８条　通行許可等

１．受注者は、建設機械、資材の運搬にあたり、道路法第４７条第１項、車両制限令第３条における一般的制限値を超える車両を通行させようとする場合は、運搬資機材毎に運搬計画（車種区分、車両番号等、車両諸元及び積載重量、資材の積載限度数量、通行経路、許可証等の有効期限等の確認方法と確認頻度）を作成し、施工計画書に記載しなければならない。
２．受注者は、運搬計画どおりに運行していることを確認しなければならない。
また、確認を行った資料については、整理保管するとともに、監督職員または検査職員の要求があった場合は速やかに提示しなければならない。

第４９条　現場環境改善

１．現場環境改善として実施する内容は、下記のとおりとするが、現場条件等により実施が困難になった場合には、監督職員と協議するものとする。

(1)仮設備関係

「環境負荷の低減」を実施するものとする。

(2)営繕関係

「現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む」を実施するものとする。

(3)安全関係

「工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等）」を実施するものとする。

(4)地域連携

「工法説明図」を実施するものとする。

２．現場環境改善については具体的な内容、実施時期について施工計画書に含め提出するものとする。

３．主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策については、工事契約後、監督職員と協議するものとし、現場環境改善費（率）の５０%を上限として設計変更の対象とする。

費　　目	実施する内容の例（率計上分）
仮設備関係	１．用水・電力等の供給設備、２．緑化・花壇、３．ライトアップ施設 ４．見学路及び椅子の設置、５．昇降設備の充実、６．環境負荷の低減
営繕関係	１．現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む）、２．労働者宿舎の快適化、３．デザインボックス（交通誘導員待機室）、４．現場休憩所の快適化 ５．健康関連設備および厚生施設の充実等
安全関係	１．工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） ２．盗難防止対策（警報機等）、３．避暑（熱中症予防）・防寒対策
地域連携	１．完成予想図、２．工法説明図、３．工事工程表、 ４．デザイン工事看板（各工事ＰＲ看板含む） ５．見学会等の開催（イベント等の実施含む） ６．見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営、 ７．パンフレット・工法説明ビデオ、８．地域対策費（地域行事等の経費を含む）、９．社会貢献

第５０条　工期変更

１．工期は、雨天、休日等６６日を見込み、契約の翌日から令和９年１月８日とする。

なお、休日には、日曜日、祝日、年末年始休暇及び夏季休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）に加えて以下の事項を見込んでいる。

なお、準休工期間については特記仕様書第６６条　を参照すること。

①　準備期間	５０日間
②　後片付け期間	２０日間

③雨休率（猛暑日補正有り） （実働工期日数に休日と天候等による作業不能日※を見込むための係数）	０．７５
⑤検査に要する各種電子データの作成期間（後片付け期間後）	３０日間
⑥全体工期	契約締結日の翌日から 令和９年１月８日

※雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日は以下の通りである。
（当該工事の作業不能日ではない。）
イ）１日の降雨・降雪量が１０㎜/日以上の日：２６日間
ロ）８時から１７時までの WBGT 値が３１以上の時間を足し合わせた日数：６日間
（少数第１位を四捨五入（整数止め）し、日数換算した日数）
過去５か年（２０２０年～２０２４年）の気象庁（前橋観測所）及環境省（前橋地点）のデータより年間の平均発生日数を算出（雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日）

２．著しい悪天候や気象状況より工程（官積算）で見込んでいる「天候等による作業不能日」以上に作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

３．後片付け期間に、検査に要する各種電子データの作成を行うことを想定しているが、更なる期間が必要な場合は、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間と実工事期間を合わせた全体工期を設定した工事（フレックス方式）であり、発注者が示した工事完了期限までの間で、受注者は工事の始期及び終期を任意に設定できる。

なお、受注者は契約を締結するまでの間に、別紙様式－１６により、工事の始期及び終期を通知すること。

余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。

なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

また、余裕期間及び準備工の期間内に、BIM/CIM モデルの作成期間を含むものとする。これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

全体工期：契約締結日の翌日から令和９年１月８日まで

第５１条　工事工程クリティカルパスの共有

受注者は、現場着手前（準備期間内）に設計図書等を踏まえた工事工程表（クリティカルパスを含む）を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者（「発注者」又は「受注者」）を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

①受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合
②著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合
③工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合

④資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
⑤その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

第５２条　工事工程表の開示試行工事

１．本工事は、工期設定の根拠とした工事に必要な関係機関との調整、住民合意、用地確保、法定手続きなどの進捗状況を踏まえた工事工程表を開示するとともに、設計審査会等において工事工程クリティカルパスの共有や発注者が作成する工程と受注者が作成する工事工程の照合（クロスチェック）を行うことにより、適切な工期設定の取組を行う「工事工程表の開示の試行工事」である。

２．工事契約後、設計審査会等において、「前条　工事工程クリティカルパスの共有」により作成した工事工程表を確認し、受注者・発注者間でクリティカルパスの共有を行うものとする。

３．設計審査会等において、発注者が開示した工事工程表（別紙-５）との照合（クロスチェック）を実施し、必要に応じて工期延伸の判断について審査を行うなど、適正な工事工程の確保に努めるものとする。

４．本試行に関するアンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

第５３条　週休２日制適用工事（完全週休２日（土日））

１．本工事は、監督職員と受注者双方が工程調整を行うことにより、完全週休２日（土日）を達成するよう工事を実施する「現場閉所による週休２日制適用工事（完全週休２日）（受注者希望方式）」の試行工事である。

受注者は、工事契約後、完全週休２日（土日）の取組を希望するか判断の上、発注者に協議するものとし、希望しない場合は月単位の週休２日に取組むものとする。

２．週休２日の考え方は下記のとおりである。

１）週休２日

①完全週休２日（土日）

対象期間内の全ての土日において、現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

受注者の責によらず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に土日に代わる現場閉所日（以下、「代替休日」という。）を設定することによって、土日に現場閉所を行ったとみなす。なお、週の定義は月曜日から日曜日までとする。

②月単位の週休２日

対象期間内の全ての月において、現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、２８．５％（８日/２８日）以上となる現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

２）対象期間

工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇６日間、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。

また、工事着手後、受注者の責によらず週休２日の実施が困難な期間が生じる場合は、受発注者間で協議して週休２日の対象外とする作業と期間を決定するとともに、変更契約時の設計図書に対象外とする作業と期間を明示する。ただし、対象外とする期間は災害対応等のやむを得ない期間に限定すること。

３）現場閉所

巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて１日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。

３．天候等を天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、１年単位の変形労働時間制を活用する場合は、１週４０時間または１日８時間を超える労働時間を設定した月は、週休２日工事の対象期間外とする。また１ 年単位の変形労働時間制の活用について施工計画書に反映し、労働基準監督署へ提出した下記の資料を提出すること。

・１年単位の変形労働時間制を活用する労働者とその使用者が締結した労使協定

・変更した就業規則

４．現場閉所を行うときは、監督職員へ事前に連絡すること。ただし、以下に該当する場合は、連絡は不要である。

①施工計画書に記載した法定休日・所定休日の場合

②週間工程会議等により監督職員が事前に把握している場合

③官公庁の休日の場合

完全週休２日（土日）の実施にあたり、受注者の責に寄らず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に代替休日を設定すること。なお、夜間工事の場合は作業に着手した日を作業日とみなす。

また、天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、１年単位の変形労働時間制を適用し休日を振り替える場合には、振替前後の日にちが把握出来るよう施工計画書に記載しておくこと。

５．監督職員は、受注者の月毎の現場閉所率の状況を適宜確認するものとし、受注者側の週休２日の取組状況が十分でない場合は、受発注者双方において要因を分析し、週休２日が確保できるよう改善に取り組むものとする。

６．工事完了後、週休２日の取得結果が確認できる「取得報告書」を作成し、監督職員に提出するものとする。

７．アンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

８．明らかに受注者側に月単位の週休２日に取り組む姿勢が見られなかった場合については、内容に応じて、工事成績評定から点数を減ずる措置を行うものとする。

９．週休２日に掛かる費用については、当初予定価格から完全週休２日（土日）を達成した場合の補正係数を労務費、市場単価、土木工事標準単価、共通仮設費率、現場管理費率に乗じているが、現場閉所の達成状況を確認後、完全週休２日（土日）が未達成の場合は、月単位の週休２日の補正係数に変更する。月単位の週休２日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

完全週休２日（土日）の取組を希望しない場合は、月単位の週休２日の補正係数に変更する。また、現場閉所の達成状況を確認後、月単位の週休２日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

第５４条　悪天候等により工期変更が必要となる場合の協議を簡素化する試行

１．受注者は、著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生し、工期内に工事を完成することが困難な場合はその理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。

著しい悪天候とは、当該工事の工期月の雨休率が、直近５カ年における工期月の雨休率の平均値を超える場合をいう。

工期月とは、工事着手日から工事完成予定日までの期間のうちの、工期の延長変更請

求時までにかかる月（ただし、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は除く）をいう。

なお、本工事の降雨降雪日は、前橋観測所（気象庁のデータ）における１日の降雨・降雪量雨が１０㎜ 以上/日の日を想定している。

２．アンケート調査を行う場合は、これに協力すること。

第５５条　個人情報の取扱について

（基本的事項）

１．受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成１５年５月３０日法律第５７号）第６６条第２項第１号の規定に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

（秘密の保持）

２．受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

（取得の制限）

３．受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。

また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

（利用及び提供の制限）

４．受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

（複写等の禁止）

５．受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

（再委託の禁止）

６．受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）には、受注者は当該第三者に対して、個人情報の保護に関する法律（平成１５年５月３０日法律第５７号）第６６条第２項第４号に基づく個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じさせなければならない。

（事案発生時における報告）

７．受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

（資料等の返却等）

８．①受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又

は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。なお、発注者の指示または承諾により個人情報が記録された資料等を複写等した場合には、確実にそれらを廃棄または消去するとともに、証明書（別紙－２）を発注者に提出しなければならない。

②前項の規定は、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）において準用する。

（管理の確認等）

９．発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

（管理体制の整備）

１０．受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

（従事者への周知）

１１．受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

第５６条　施工時期及び施工時間の変更

本工事は、下記の工事による影響箇所の工事着手については監督職員の指示によるものとする。

本工事の作業区分は下記によるものとする。

作業区分	施　工　区　分	標準作業時間
昼間作業	全ての工事	８：００～１７：００

上記については、積算上の条件明示であり、作業時間を指定するものではない。

※各々の標準作業時間には、日々の作業準備、後片付け、ＫＹ等安全活動なども含まれる。

ただし、上記区分に変更を要する場合は、監督職員と協議するものとする。

第５７条　他工事との調整

１．下記工事の受注者とは、現場が連続し施工が輻輳することから、施工手順・工程については十分な打ち合わせを行い、工事の円滑な進捗に努めるものとする。

２．本工事との調整工事は以下のとおりとする。

工事名	施工範囲	工期（予定）
Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その２工事	№55+80～№56+80	令和８年４月～令和８年１２月
Ｒ６国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区改良その２工事	№53～№58	令和７年４月～令和９年５月末（予定）

第５８条　新技術の活用「新技術の定義」

１．本工事は、新技術活用の促進を図ることを目的とした、新技術活用工事である。

２．新技術の定義

新技術活用の原則化における新技術の定義は以下による。

①技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術

②公共工事等において実用段階に達している技術

③当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術

④実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であって国により導入促進を図る技術

３．対象とする新技術

新技術活用の原則義務化の対象とする新技術は以下のとおりとする。

１）新技術情報提供システム（NETIS）登録技術

URL http://www.netis.mlit.go.jp

２）NETIS のテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術

３）新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術

４）新技術のニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

対象とする技術は、NETIS「マッチング」に掲載された技術のうち、「標準化推進技術」「普及促進技術」のいずれかに該当するものとする。

なお、NETIS 掲載期間終了技術は対象外とする。

第５９条　新技術の活用（施工者選定型）

１．本工事は、施工者が原則１技術以上の新技術を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。

２．本工事において、第５８条　新技術の活用「新技術の定義」３．対象とする新技術に示す１）～４）の技術が選定されていない場合、受注者は施工に先立ち、当該工事内容について十分把握の上、新技術を原則一つ以上選定し、監督職員の承諾を得た上で活用するものとし、活用する新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載するものとする。

活用する新技術が NETIS 登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとする。

３．受注者は、選定した新技術が第５８条　新技術の活用「新技術の定義」３．対象とする新技術に示す１）～４）のいずれの新技術であるか確認できるよう、施工計画書に記載する。

４．当該技術については、設計図書等で定められた事項に係る部分でない場合は、設計変更の対象としない。

５．受注者は、試行現場照会中の技術を活用する場合において当該技術の施工にあたり NETIS 申請者が実施する「試行調査」に協力するものとする。

なお、試行調査に係る費用は NETIS 申請者が負担する。

６．試行現場照会中の技術を活用する場合、当該工事の実施箇所において標準的に使用される技術の施工費相当額を超える費用については、試行調査に係る費用とみなし、NETIS 申請者の負担とする。

７．受注者は、活用する新技術が情報種別記号「－ＶＥ」以外の NETIS 登録技術の場合は、当該技術の施工にあたり「活用効果調査」を行うものとする。「活用効果調査」は「新

技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。

８．受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第６０条　建設現場の遠隔臨場における遠隔臨場の実施（発注者指定型）

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものとする。

なお、遠隔臨場の実施にあたっては「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（案）Ｒ５．３」を参考に実施するものとする。

「URL　https://www.mlit.go.jp/tec/content/001594449.pdf」

１．遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

２．実施内容

（１）段階確認・材料確認、立会での確認

①受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」を行うものとする。

②確認実施者が現場技術員の場合、現場技術員は使用する PC にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ等で記録し、情報共有システム（ASP）等に登録して保管する。（従来の立会資料の管理と同様とする。）

（２）動画撮影

動画撮影は、撮影者の安全を確保するため、撮影者が移動の際に横転等が考えられるいわゆる「歩きスマホ」（カメラを手に持って歩きながら撮影）での撮影はしないこと。

動画撮影は、静止して撮影又は撮影者のヘルメットや胸ポケットに付ける等の安全に配慮するものとする。

（３）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し決定するものとする。

なお、配信に利用するシステムは、「パッケージ化したシステム」、「情報共有システム（ASP）」、「Web 会議システム（teams、zoom 等）」等、何れのシステムを利用してよい。

（４）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行うものとする。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。

なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

（５）フォローアップ調査

工事完了時に別紙様式-１９を監督職員へ提出するものとする。

また、遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。

詳細は、監督職員の指示によるものとする。

（６）費用

遠隔臨場にかかる費用については、工事実施に必要な施工管理費として、全必要額を技術管理費に積み上げ計上し、設計変更するものとする。

なお、機器の手配は基本的にリースとし、その賃料を計上するものとするが、やむを得ず購入せざるを得ない機器がある場合は、その購入費に、機器の耐用年数に対する使用期間（日単位）割合を乗じた分を計上するものとする。

また、受注者が所持する機器を使用する場合も、基本的には同様の考え方とするものとする。

（７）不正行為

遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、「建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準　令和５年３月３日（国不建第５７８号）」等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第６１条　建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

１．建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

「遠隔臨場を活用した工事検査」は、受注者における「工事検査に伴う移動時間の削減や工事関係書類の簡素化」や発注者（監督職員・検査職員）における「現場実地（現場臨場）の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、３６０度カメラ等）と Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査項目を遠隔で行うものである。なお、遠隔臨場による工事検査は、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』の内容に従い実施する。

２．遠隔臨場を活用した工事検査の対象

遠隔臨場を活用した工事検査は、完成検査、中間技術検査、既済部分検査、完済部分検査における、工事実施状況、出来形、品質、出来ばえの各検査項目を対象とし、以下の表に示す。また、全ての検査を対象とするが、現場条件や、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「７．３検査項目の適応性」を踏まえ、従来方法（対面書類検査、現場実地検査）を選択することも可能である。

凡例　○：遠隔臨場による工事検査の対象

	工事実施状況	出来形		品質		出来ばえ		
	書類	書類	実地	書類	実地	書類	実地	
完成検査	○	○	○	○	○	○	○	
中間技術検査	×	×	×	×	×	×	×	
既済部分検査	○	○	○	○	○	○	○	
完済部分検査	○	○	○	○	○	○	○	

３．遠隔臨場を活用した工事検査を適用する検査項目

現場条件により遠隔臨場による工事検査の適応性が一致しない場合も想定されることから、検査項目での適用・不適用については、監督職員が検査職員と調整・決定し、受注者に遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目を連絡する。遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目については、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ判断する。

４．実施内容

（1）技術検査、工事検査での実施

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、３６０度カメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査を実施するものである。

（2）機器の準備

遠隔臨場による工事検査に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員と協議し決定するものとする。

（3）遠隔臨場による工事検査を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場による工事検査が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で予備日を取り決めて検査日を連絡する。

（4）効果の検証

遠隔臨場による工事検査を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

（5）費用

遠隔臨場による工事検査にかかる費用については、受発注者間の協議を踏まえ、技術管理費に積上げ計上する。なお、監督業務で遠隔臨場を実施する工事については、遠隔検査を行うために追加で要する費用が生じた場合に監督職員と協議するものとする。

（6）不正行為

遠隔臨場による工事検査において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和３年９月３０日（国不建第２７３号）』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第６２条　契約後ＶＥ方式

ＶＥ提案の定義について

「ＶＥ提案」とは、契約書第１９条の２の規定に基づき、設計図書に定める工事の目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に行う提案である。

ＶＥ提案の意義及び範囲について

１．受注者がＶＥ提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のものとする。

２．以下の提案は、ＶＥ提案の範囲に含まないものとする。

（１）施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。

（２）契約書第１８条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。

（３）提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。

ＶＥ提案書の提出について

３．受注者は、前項のＶＥ提案を行う場合は、次に掲げる事項をＶＥ提案書（別紙様式－１～４）に記載し、発注者に提出しなければならない。

（１）設計図書に定める内容とＶＥ提案の内容の対比及び提案理由

（２）ＶＥ提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）

（３）ＶＥ提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額及び算出根拠

（４）発注者が別途発注する関連工事との関係

（５）工業所有権等の排他的権利を含むＶＥ提案である場合、その取扱いに関する事項

（６）その他ＶＥ提案が採用された場合に留意すべき事項

４．発注者は、提出されたＶＥ提案書に関する追加的資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。

５．受注者は、前項のＶＥ提案を契約の締結日より、当該ＶＥ提案に係る部分の施工に着手する３５日前までに、発注者に提出できるものとする。

６．ＶＥ提案の提出費用は、受注者の負担とする。

ＶＥ提案の審査について

提出されたＶＥ提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ設計図書に定める工事の目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、ＶＥ提案として採用することを原則として審査を行い、当該提案の採否を決定するものとする。

ＶＥ提案の採否等について

ＶＥ提案の採否について、原則として、ＶＥ提案の受領後１４日以内に書面（別紙様式－５）により通知するものとする。ただし、受注者の同意を得た上でこの期間を延長することができるものとする。

また、ＶＥ提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。

ＶＥ提案を採用した場合の設計変更等について

７．ＶＥ提案を採用した場合において、必要があるときは、発注者は設計図書の変更を行わなければならない。

８．前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、発注者は、必要があるときは請負代金額を変更しなければならない。

９．前項の変更を行う場合においては、ＶＥ提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の１０分の５に相当する金額（以下「ＶＥ管理費」という。）を削減しないものとする。

１０．ＶＥ提案を採用した後、契約書第 18 条の条件変更が生じた場合、発注者がＶＥ提案に対する変更案を求めた場合、受注者はこれに応じるものとする。

なお、ＶＥ管理費については、原則として、変更しないものとする。

ＶＥ提案の活用と保護について

評定の結果、当該ＶＥ提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るものとする。その場合、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、当該権利の保護に留意するものとする。

ＶＥ提案の責任の所在について

発注者がＶＥ提案等を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、ＶＥ提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。

第６３条　生産性向上チャレンジ工事

１．試行の実施

本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組みを推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。

２．試行の内容

工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組みを実施することができる。

本取組みを実施する場合は,施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組み内容②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等について、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。

なお、「技術提案で提案済みの内容」及び「特記仕様書第５８条　新技術活用「新技術の定義」」において採用した取組みについては本試行の対象外とする。

３．工事成績評定

施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。

４．本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。

第６４条　六価クロム溶出試験

本工事は、「六価クロム溶出試験」の対象工事であり、下記に示す工種について、六価クロム溶出試験を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。

なお、試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。また土質条件、施工条件等により試験方法に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

六価クロム溶出試験対象工種名及び検体数

舗装工　フィルター層：１検体

合計１検体

第６５条　出来高部分払方式

本工事の部分払は、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施し、円滑かつ速やかな工事代金の流通を確保することによって、より双務性及び質の高い施工体制の確保を目指すため、「出来高部分払方式実施要領」[国土交通省ＨＰ https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html 参照]に基づき行うものとする。

第６６条　猛暑期間を休工可能とする工事について（試行）

１．本工事は、受注者の判断に基づき猛暑期間を一定期間休工とした際の、取組の効果や必要となる費用の実態を調査する試行工事である。

２．本工事で見込んでいる準休工期間は以下のとおりとする。

準休工期間：令和８年７月１日～令和８年８月３１日

なお、発注者が示した準休工期間の間で、受注者は休工期間を任意に設定できるものとするが、最低２週間程度の休工は必須とする。ただし、天候や気象状況により、猛暑対策が不要と判断できる場合は、この限りではない。

休工期間を変更する場合は、工事契約後に監督職員と協議を行うものとし、設計変更の対象とする。

３．休工期間における増加費用は当初計上していないが、これにより難い場合は監督職員と協議するものとする。
４．受注者は、本試行におけるアンケート調査に協力するものとする。アンケート用紙は別途監督職員より送付する。

第６７条　猛暑期間における現場施工回避の協議

猛暑期間の現場施工を回避することにより工期延期が必要となる場合には、監督職員と協議を行うことができる。

第６８条　猛暑時間における現場施工回避（早朝・夜間施工）の支援

受注者は、猛暑時間における現場施工回避（早朝・夜間施工）するにあたり、警察や地元等との調整を行う際に、監督職員の臨場について協議することができる。

第２章　土　　工

第６９条　路体盛土工

路体盛土工の盛土材は、事業地内仮置き場、鏑木川東調整池（運搬距 L=3.0km 以下）より運搬する。

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第３章　無筋・鉄筋コンクリート

第７０条　レディーミクストコンクリート

１．コンクリートは、レディーミクストコンクリートを原則とし、下記の仕様によるものとする。

用　途	粗骨材の最大寸法	スランプ	水セメント比	呼び強度	セメントの種類	備　考
現場打ち集水桝	２５（２０）㎜	８㎝	60%以下	１８N/㎟	高炉セメントＢ種	
張りコンクリート構造物基礎	２５（２０）㎜	８㎝	－	１８N/㎟	高炉セメントＢ種	

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

２．コンクリートの耐久性向上の対策は「コンクリートの耐久性向上」仕様書（土木編）（平成１４年８月一部改正）により行うものとする。

第７１条　配合

水セメント比については、示方配合表により監督職員の確認を得なければならない。なお、水セメント比を減じることにより施工性が著しく低下する場合は、必要に応じて、高性能減水剤の使用等を検討しなければならない。また、下記構造物については適用除外とする。

・仮設構造物（建設後数年の内に撤去するもの。）

・最大高さ１ｍ未満の擁壁・水路・側溝及び街渠等の構造物。
・管（函）渠等（φ６００未満、６００㎜×６００㎜未満）の構造物。
・道路照明、標識、防護柵等の構造物。
・耐久性を期待しない構造物。

第７２条　モルタル

モルタルに使用するセメントの種類は、普通ポルトランドセメントでセメント量は、５３０kg/m3 以上（又は１：３）とする。

第７３条　型枠穴孔の補修

型枠セパレータで除去タイプのコーンを用いる場合は、セパレータ端部が鉄筋かぶり内に残らないようにすること。

また、モルタル等による型枠穴孔の補修を行う場合は、専用コテ等で入念に仕上げること。

型枠穴孔の補修材の落下による第三者被害が想定される箇所については、落下の懸念が少ない方法によることとし、その方法を施工計画書に記載しなければならない。

第２編　材料編

第１章　土木工事材料

第７４条　その他の砂利、砕石、砂

構造物の基礎には再生砕石ＲＣ－４０を使用するものとする。

第７５条　低炭素型コンクリート試行工事（プレキャスト）

本工事は、建設関連業界等のカーボンニュートラルに向けた取組を促進するとともに、調達上の課題等を検証するため、セメント置換率の高いコンクリートなどのコンクリート製造時のＣＯ２排出量（コンクリートの材料のＣＯ２排出を含む）を削減した「プレキャスト製品による低炭素型コンクリート」の試行工事である。

①低炭素型コンクリート製品の規定・確認

低炭素型コンクリートはポルトランドセメントの置換率が５５％以上のもの又はこれと同等以上のＣＯ２排出削減効果のあるものとする。受注者は、低炭素型コンクリート製品の購入前に、以下が確認出来る資料を監督職員に提出し、施工数量について監督職員と協議するものとする。

・低炭素型コンクリート製品の出荷を予定している工場の所在
・低炭素型コンクリート製品の出荷を予定している工場と施工現場までの運搬距離
・低炭素型コンクリート製品の見積書
・低炭素型コンクリート製品によるＣＯ２排出削減効果（算出可能な場合に限る）

低炭素型コンクリート製品の配合品質証明書等を監督職員に提出し、監督職員は置換率が５５％以上であること又は同等以上のＣＯ２排出削減効果があることを確認するものと

する。なお、費用対効果等を考慮し、低炭素型コンクリートを使用しない場合がある。

②試行工事の実施に要する費用

当該試行工事の実施に要する低炭素型コンクリート製品の費用は見積によるものとし、設計変更の対象とする。

③試行結果の検証への協力

施行にあたり受注者は実施状況や結果検証のための調査に協力するものとする。

第７６条　一般瀝青材料

ストレートアスファルトの針入度は下表のとおりとする。

用途	針入度	摘要
基　層　・　中間層	４０～６０	施工時期が冬期間にかかる場合は ６０～８０を使用しても差し支えない
上層路盤・歩道舗装等	６０～８０又は ８０～１００	

第７７条　歩車道境界ブロック等の防草タイプの使用について

本工事で施工する歩車道境界ブロック（２）は防草タイプを使用する。

第７８条　目地板

伸縮目地材は樹脂発泡体とし、厚さ１０㎜、発泡倍率３０倍とする。

第３編　土木工事共通編

第１章　総　　則

第７９条　現場技術員

本工事は、現場技術員の配置対象工事であり、現場技術業務を建設コンサルタント等に委託する予定としている。

第８０条　座標値

本工事の契約図書に記載されている座標は以下のとおり

工種	測地系	平成２３年（２０１１年）東北地方太平洋沖地震に伴う座標補正の必要の有無
全ての工種	世界測地系 2000	無

座標補正を行う必要がある場合は、補正の実施内容について監督職員と協議するものとする。

第８１条　施工体制調査員

本工事は、現場における施工体制の点検補助を建設コンサルタント等に委託する予定とし

ている。

また、本工事の施工体制の点検を担当する施工体制調査員の氏名は、別途監督職員より通知する。

なお、施工体制調査員は、工事の情報共有システム（ＡＳＰ）により電子書類を閲覧し、点検を行うため、施工体制調査員を情報共有システム（ＡＳＰ）のユーザーに登録するものとする。（「閲覧のみ可能」で登録）

第８２条　施工体制の点検

１．受注者は「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成１２年法律第１２７号　最終改正令和６年１２月１３日)第１５条３により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。

２．施工体制の点検員は当該工事の監督職員、施工体制調査員及び発注担当事務所の職員である。

３．施工体制調査員は、業務証明書を携帯し、胸に委託業務名、委託先、業務職（施工体制調査員）、氏名、顔写真の入った名札を着用している。

４．当該工事の監督職員及び発注担当事務所の職員は、所属、氏名、顔写真の入った名札を着用している。

５．施工体制調査員は、施工体制の点検を行う者で、指示等の権限は有しない。

６．施工体制調査員は、電子書類の点検を工事の情報共有システム（ＡＳＰ）により「閲覧」し、点検する。

７．施工体制調査員は、第１回目の現地点検は現地で点検するが、以降の点検は、映像により点検が可能な項目は、必要に応じ、工事の受注者が導入しているＷＥＢ会議や遠隔臨場システムを活用し、点検することを可能とする。

ただし、立会や打合せ等においてＷＥＢ会議や遠隔臨場システムを導入していない工事や現地での点検を希望する工事は、従来通り、現地で点検する。

第８３条　工事完成図書の納品

１．本工事は電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「工事完成図書の電子納品等要領（令和５年３月）：（以下「要領」という。）」に基づいて作成した電子データを指す。

「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する。

なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】（令和６年３月）」を参考とするものとする。

２．本工事は「オンライン電子納品実施要領」に基づき、オンライン電子納品を行うものとする。

オンライン電子納品は、発注者が用意した電子納品保管管理サーバへのオンラインによる納品を原則とする。

なお、オンラインによる納品が実施できない場合は、監督職員と協議の上、電子媒体に格納して納品するものとする。

３．成果品の提出の際は、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施したうえで提出すること。

第８４条　書類限定検査

１．本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と技術検査官の重複確認廃止の徹底及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「書類限定検査」の対象である。

２．書類限定検査とは、検査時に下記の１０書類に限定して資料検査を行うものとする。

①施工計画書	⑥出来形管理図表
②施工体制台帳（下請引取検査書類を含む。）	⑦品質管理図表
③工事打合せ簿（協議）	⑧品質規格証明書
④工事打合せ簿（提出）	⑨品質証明書
⑤工事打合せ簿（承諾）	⑩工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

・「低入札価格対象工事」又は「監督体制強化工事」は対象外

・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事は対象外

３．実施状況や改善点等を把握するためのアンケートに協力する。

第８５条　ウイルス対策

受注者は、電子納品時のみならず、監督職員に工事に関する事項について電子データを提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出しなければならない。

また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）しなければならない。

第８６条　防護柵設置工における出来形確保対策について

１．受注者は、防護柵設置工の出来形管理方法について、防護柵設置工着手前に監督職員と協議しなければならない。

２．受注者は、支柱の建て込み時に現地の状況等により建て込みが困難な場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。

３．受注者は、防護柵の所定の根入れ長を確保するため、非破壊試験による出来形管理を行う。ただし、以下の場合はビデオカメラによる出来形管理とすることができる。

（１）防護柵が「非破壊試験による鋼製防護柵の根入れ長測定要領（案）」（以下「測定要領（案）」という。）［国土交通省ＨＰ http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html/ 参照］の適用範囲外の場合

（２）受注者が測定機器を調達できない場合

（３）測定機器が測定要領（案）で定める性能基準を満たさない場合

（４）非破壊試験による出来形管理が妥当ではないと判断される場合

（５）その他非破壊試験によって出来形管理ができない場合

４．非破壊試験による出来形管理にあたっては、測定要領（案）に従い行う。

５．ビデオカメラによる出来形管理にあたっては、以下の状況をビデオカメラにより全本数分撮影する。

（１）支柱建て込み前の根入れ長測定状況

（２）支柱建て込み直前（機械セット時）から建て込み完了まで連続撮影

なお、撮影したビデオテープ等の記録媒体は施工確認書（別紙様式－１３）とともに監督職員へ提出する。

６．これらに定められていない場合は、監督職員と協議する。
７．非破壊試験費用は見込んでいないが、監督職員と協議のうえ非破壊試験による出来形管理を行うこととした場合は設計変更の対象とする。

第４編　道路編

第１章　舗装

第８７条　中温化アスファルト舗装の試行

本工事において、中温化アスファルト舗装の試行の実施について、監督職員と協議するものとする。なお、中温化アスファルト混合物の流通状況等により、実施が困難な場合もあるため、本試行の実施は任意とする。

＜試行内容＞

・新規合材を対象とする。
・実施範囲や実施時期等の詳細については、監督職員と協議する。
・中温化アスファルト混合物は製造時の加熱温度をマイナス２０℃又はマイナス３０℃低減させて製造されるものを使用する。
・機械式フォームド方式を基本とするが、監督職員と協議の上、添加剤方式も可とする。
・本試行に伴う追加費用は設計変更の対象とする。
・本試行を実施した場合、実施後に監督職員より送付されるアンケートに協力するものとする。

第８８条　粒状路盤材

粒状路盤材クラッシャーランは、ＲＣ－４０とする。

第８９条　粒度調整路盤材

粒度調整路盤材料は、Ｍ－４０とする。

第９０条　示方配合のアスファルト量

加熱アスファルト混合物の示方アスファルト量及び骨材の最大粒径は、下表のとおりとする。

呼び名	混合物の種類	最大粒径	アスファルト量	摘　　要
ＲＡｓｔ	再生歴青安定処理	４０㎜	４．０％	上層路盤
ＲＡ①	再生粗粒度ｱｽｺﾝ	２０㎜	５．０％	基　　層
改ⅡＡ①	改質Ⅱ型粗粒度ｱｽｺﾝ	２０㎜	５．０％	中　間　層
Ａ⑨	開粒度アスコン	１３㎜	４．５％	透水性舗装

第９１条　ポリマー改質アスファルト

１．配合設計

耐流動対策の配合設計は、骨材粒度範囲の中央値以下を目標にし、７５μｍふるい通過質量百分率は小さめにする。７５μｍふるい通過分のうち、回収ダスト分は３０％を越えないものとする。最適アスファルト量は、下表のマーシャル基準値を満足するアスファルト量の共通範囲の中央値かそれ以下とする。

安定度Ｓ (kN)	フロー値Ｆ (1/100cm)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	Ｓ／Ｆ (kN/m)
7.35kN 以上 (735kgf)	土木工事共通仕様書による			2,500 以上

注)
S:安定度
F:フロー値
突固め回数は 75 回

耐流動対策を行う場合は、最適アスファルト量でホイールトラッキング試験を行い、ＤＳ値を確認し監督職員の承諾を得るものとする。

ＤＳの目標値は下表のとおりとするが、目標値に達しない場合は、監督職員と協議するものとする。

（単位：回／mm程度）

種別	交通量区分　Ｎ６		交通量区分　Ｎ７	
	一般部	交差点部	一般部	交差点部
表層	3,000	4,000	4,000	5,000
基層	―――	4,000	4,000	5,000

２．混　合

混合時間は、骨材にアスファルトの被覆が十分に行われ、均一に混合できる時間とする。

混合温度は、アスファルトの動粘度が１５０～３００センチストークス（セイボルトフロール度７５～１５０秒）を示す温度範囲から選ぶことを原則とするが、製品により望ましい温度が異なるために留意するものとする。

３．混合物の運搬

混合物の運搬にあたっては、十分な保温措置を施すものとする。

４．敷均し・転圧

混合物の舗設は、通常のアスファルト混合物より高い温度で行う必要があり、しかも製品により望ましい温度が異なるため、特に温度管理に留意し速やかに敷均しを行い十分に転圧を行うものとする。

５．施工計画

一般部、交差点部の標準的な１日当りの施工工程を施工計画に記載するものとする。なお、作成にあたり、夏期においては初期わだち掘れに影響を与える交通開放温度に、冬期においては締固め度に影響を与えるアスファルト混合物の温度低下に留意するものとする。

第９２条　加熱アスファルト混合物

受注者は、本工事に使用する加熱アスファルト混合物（以下「混合物」という。）で、アスファルト混合物事前審査の認定を受けた混合所の混合物を使用する場合は、「アスファルト混合物事前調査における土木工事仕様書」及び「アスファルト混合物事前審査における品質管理基準」によるものとする。

第９３条　歩行者系舗装

１．配合設計

歩道における透水性舗装の表層に用いる開粒度アスコンは、下表の基準値を満足するものとする。アスファルト量の設定に際しては、施工時に分離がおこらないように慎重に行うものとする。

試験項目	基準値	試験方法
安定度｛kN(kgｆ)｝	3.5 以上 (350)	マーシャル試験
フロー値（1/100 cm）	20 ～40	マーシャル試験
空隙率（%）	12 以上	舗装調査・試験法便覧
透水係数（cm/sec）	10^{-2}以上	舗装調査・試験法便覧

第５編　その他

第９４条　舗装台帳

舗装台帳等の資料作成は、監督職員の指示により作成し、工事完成時に下記の資料を提出するものとする。提出資料 各２部(原稿１部、コピー１部)

（１）舗装台帳

（２）舗装施工データシート（別紙様式－１４）

（３）舗装施工概略図

（４）位置図（１／５万）

（５）平面図（完成平面図）

第９５条　道路台帳

道路台帳等の資料作成は、監督職員の指示により作成し、提出するものとする。

第９６条　全国道路施設点検データベース（舗装）への登録について

１．受注者は、必要に応じ管理運営団体の定める方法によりユーザー登録を行った上で、舗装工事のデータを、全国道路施設点検データベース（舗装）（以下「点検 DB（舗装）」）に登録する。登録するデータは、「道路舗装データベース　登録・利用マニュアル」によるものとし、事前に監督職員と協議しなければならない。登録するデータに係る権利は、第９７条　に定めるとおりとする。

なお、点検 DB（舗装）の管理運営団体に支払う登録料については契約変更の対象とする。

また、上記マニュアルは、全国道路施設点検データベース（舗装）の管理運営団体のホームページ（https://www.jice.or.jp/pavement_db/）で閲覧できる。

２．受注者は、状況写真や地形図を含む一般図などの画像データ等において、個人情報が表示されないよう加工を施したものを使用するとともに、点検 DB（舗装）へ登録するデータに個人情報が含まれないことを確認しなければならない。また、登録するデータに個人情報が含まれないことを確認する手法について施工計画書に明記し、個人情報が含まれないことを確認した書類として「別紙－７」に示すチェックリストを提出すること。

なお、受注者と発注者の双方がチェックリストにより、個人情報が含まれないことを確認した後でなければ、データ登録を行ってはならない。

第９７条　登録するデータに係る権利について

１．本工事の成果として点検 DB（舗装）へ登録されるデータ及びこれに係る特許、実用新案登録、意匠登録等を受ける権利及び当該権利に基づき取得する産業財産権並びに著作権（著作権法第２７条及び第２８条に定める権利を含む。）その他の知的財産権（ノウハウ等に関する権利を含む。）は、すべて登録・確定と同時に発注者に帰属する。

２．点検 DB（舗装）へ登録されるデータに係る知的財産権のうち、受注者又は第三者が従前から保有していた知的財産権が含まれる場合、受注者は、発注者、発注者が指定する者及び点検 DB（舗装）を利用する者（以下「発注者等」という。）に対し、当該知的財産権の利用を許諾し、又は許諾させるものとする。

３．受注者は、自ら（受注者に所属する者を含む。）又は第三者をして、発注者等に対し、点検 DB（舗装）へ登録されるデータを構成する著作物に係る著作者人格権を行使せず又は行使させない。

４．前三項の場合において、受注者は、発注者に知的財産権を帰属させ若しくは発注者が適法に知的財産権を行使するため、又は発注者等による点検 DB（舗装）の運用及び利用のために必要となる一切の手続（第三者からの許諾取得を含む。）を履践するものとする。

５．発注者及び受注者は、前四項に定める権利の帰属及び不行使並びに手続履践の対価が委託料に含まれることを相互に確認する 。

６．受注者は、点検 DB（舗装）へ登録されるデータが知的財産権を含む第三者の権利を侵害しないことを表明及び保証し、受注者がかかる表明保証に違反したことにより発注者が第三者から訴訟を提起され又は権利を主張される等の紛争が生じた場合には当該紛争の解決に協力するとともに、発注者に生じた損害、損失及び費用（合理的な範囲の弁護士費用を含む。）について、発注者に対してこれを補償するものとする。

第９８条　震災対策

１．地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。

２．地震注意情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保全措置を講ずるものとする。

第９９条　道路施設基本データの作成

本工事完成時には、以下に示す『道路施設基本データ』を作成し、監督職員に提出するものとする。ただし、本工事に該当しない施設の基本データは作成しないものとする。

なお、完成後でも、発注者は受注者に対して、『道路施設基本データ』の内容について、説明を求めることがある。

１．道路施設基本データの種類

区分	施設番号	施設名	区分	施設番号	施設名
道	C020	縦断勾配		E060	道路情報板
	C030	平面線形		E070	交通遮断機
	C050	舗装		E080	Ｉ．Ｔ．Ｖ
	C060	道路交差点		E090	車両感知器

路構造	C070	鉄道交差点	付属物および付属施設	E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行車道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用自歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自動車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構造物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路ＢＯＸ等		E220	ＣＡＢ電線共同溝
	D090	横断ＢＯＸ等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D120	擁壁		E250	遮光フェンス
	D130	スノーシェルター		E270	流雪溝
	E010	防護柵		E310	防雪林
	E020	道路照明		E320	路側放送
	E030	視線誘導標（反射式）		E330	光ケーブル施設
	E040	視線誘導標（自光式）		E340	道路反射鏡
	E050	道路標識		E350	ビーコン

２．道路施設基本データの作成は、別に定める『道路管理データベースデータ作成マニュアル（案）』によるものとする。

３．道路施設基本データは、『道路施設基本データ作成システム』で作成する。

４．道路施設基本データ作成にあたって工事番号は、ＣＯＲＩＮＳ登録時の「工事契約コード番号」とする。

５．道路施設基本データに係わる以下のものを電子データにて提出すること。

①道路施設台帳作成総括表

②道路施設基本データ総括表

③道路施設基本データ一覧表

④道路施設台帳チェックシート

⑤「道路工事完成図等チェックプログラム」によるチェック結果

⑥「電子納品チェックプログラム」によるチェック結果

⑦工事数量総括表

第１００条　工事現場における説明性の向上

受注者は、事業名、事業の目的・内容・効果、工事名、工事内容、連絡先を記した工事説明書を作成し、近隣住民等から事業内容等の説明を求められた場合は、工事の安全確保に支障のない範囲において、当該工事説明書を配布する等、工事現場の説明性の向上を図るものとする。

また、受注者は、工事現場作業員に対し、工事内容及び事業目的・効果を周知するものと

する。

第１０１条　様　式

本特記仕様書中の各様式等については、高崎河川国道事務所ホームページ（http://www.ktr.mlit.go.jp/takasaki/）の［入札・契約情報］－［技術情報］－［特記仕様書様式等］よりダウンロードすること。

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

明示項目及び明示事項

明示項目	明示事項	記載条項
工程関係	□ 他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工事等に影響がある場合は、影響箇所及び他の工事の内容、開始又は完了の時期。	第５７条
	□ 施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合は、制限される施工内容、施工時期、施工時間及び施工方法。	第５６条
	□ 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容、成立見込み時期。	第５６条
	□ 関係機関、自治体等との協議の結果、特定された条件が付され当該工事の工程に影響がある場合は、その項目及び影響範囲。	第５６条
	□ 余裕工期を設定して発注する工事については、工事の着手時期。	第５０条
	□ 設計工程上見込んでいる休日日数等作業不能日数。	第５０条
安全対策関係	□ 交通安全施設等を指定する場合は、その内容、期間。	第３９条
	□ 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事での施工方法、作業時間等に制限がある場合は、その内容。	第５６条
	□ 落石、雪崩、土砂崩落等に対する防護施設が必要な場合は、その内容。	第３９条
	□ 交通誘導員、警戒船及び発破作業等の保全設備、保安要員の配置を指定する場合又は発破作業等に制限がある場合は、その内容。	第３９条
	□ 有毒ガス及び酸素欠乏等の対策として、換気設備等が必要な場合は、その内容。	第３９条
建設副産物関係	□ 建設副産物の現場内での再利用及び減量化が必要な場合は、その内容。	第２５条
	□ 建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場等の処理条件。 なお、再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合は、その受入場所、距離、時間等の処分条件。	第２５条
その他	□ 関係機関・自治体等との近接協議に係る条件等その内容。	第５６条

別紙－２

証明書

工事（業務）名：

受 注 業 者：

証　明　者：

個人情報が記録された資料等について、廃棄又は消去したことを証明します。

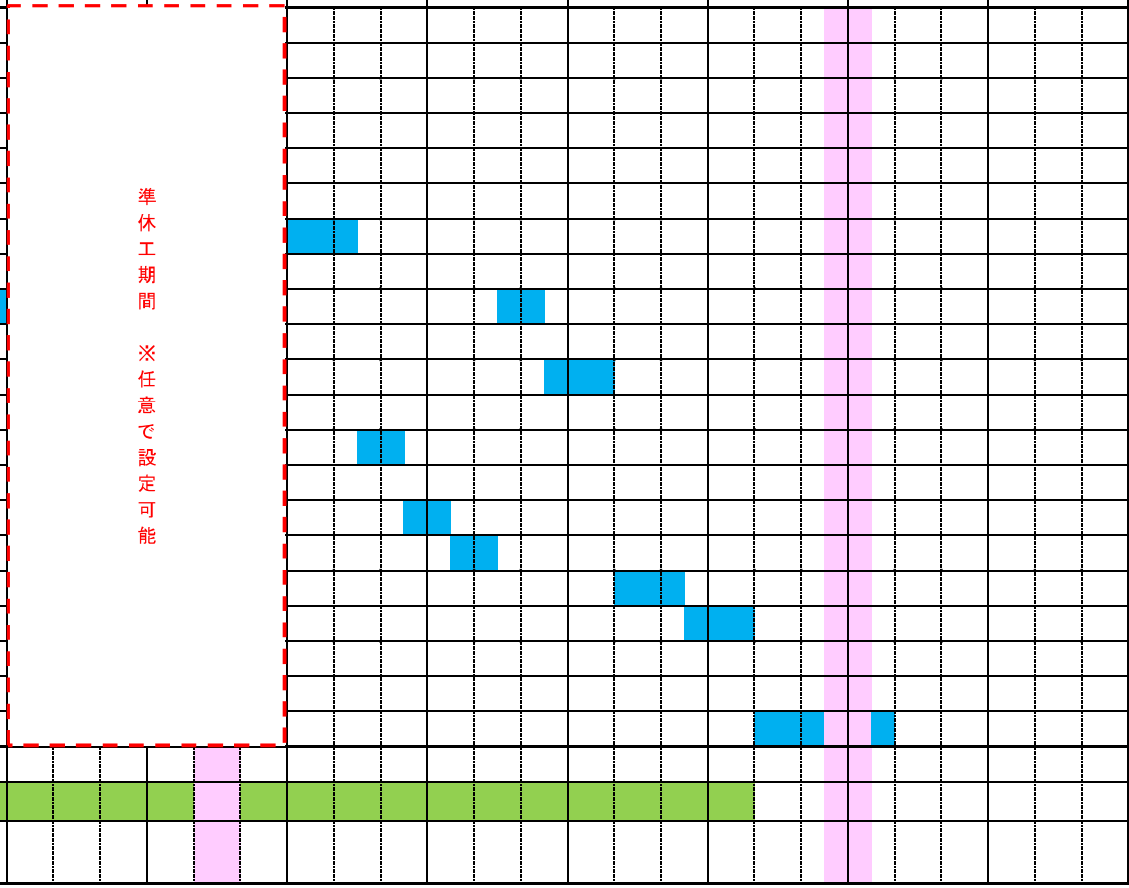
※以下は、紙により提出する場合において、押印を省略する場合のみ記載すること。
連絡先は２以上記載すること。

本件責任者（会社名・部署名・氏名）：
担当者（会社名・部署名・氏名）：
連絡先１：
連絡先２：

（※証明者について
工事については、「現場代理人」又は「主任（監理）技術者」が行うものとする。
業務については、「管理技術者」が行うものとする。　　）

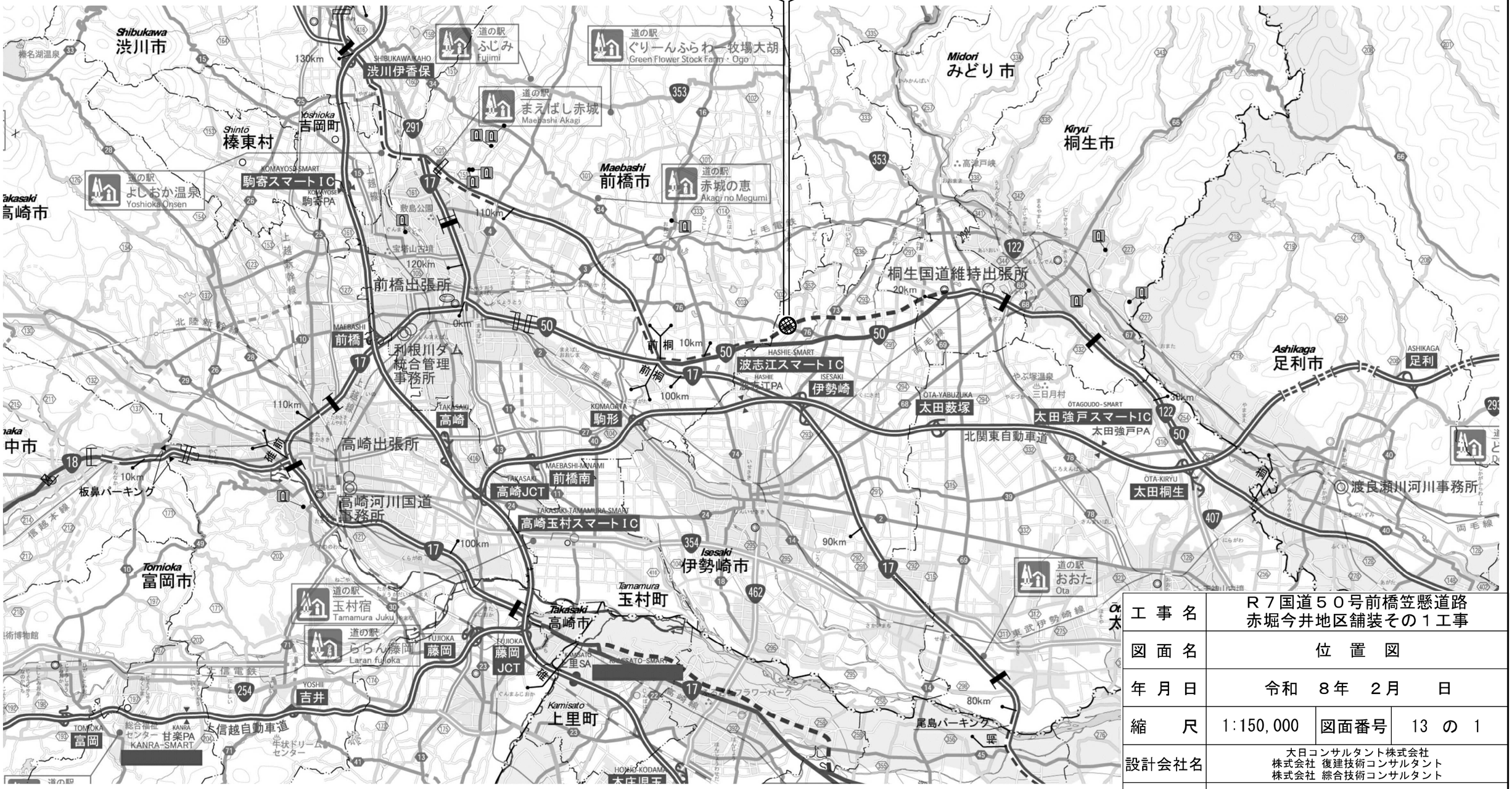
概略工事工程表
工事名：Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その１工事

工　種	単位	数量	備　考（パーティ(pt)数等）
準備工			・50日間
排水構造物工	式	1	
側溝工	m	230	(1pt)
防草コンクリート	m2	220	(1pt)
縁石工	式	1	
歩車道境界ブロック	m	460	(1pt)
中央分離帯工	式	1	
張りコンクリート	m2	130	(1pt)
防護柵工	式	1	
転落防止柵	m	230	(1pt)
アスファルト舗装工（ＩＣＴ）	式	1	(1pt)
下層路盤	m2	1,930	(1pt)
上層路盤	m2	1,930	(1pt)
基層	m2	1,930	(1pt)
中間層	m2	1,930	(1pt)
後片付け			・２０日間
関連工事　Ｒ６国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区改良その２工事			
関連工事　Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路赤堀今井地区舗装その２工事			
年末年始・GW・お盆			・12月下旬～１月上旬 ・４月下旬～５月上旬 ・８月中旬
雨休率の適用	準備・後片付けを除く、雨休率（猛暑日補正あり）を適用		



工期：工事の始期から令和９年１月８日まで

位　置　図　S=1:150,000



1:150,000

0　5　10　15　20km

工事名	R７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	位　置　図		
年月日	令和　８年　２月　　日		
縮　尺	1:150,000	図面番号	13　の　1
設計会社名	大日コンサルタント株式会社 株式会社 復建技術コンサルタント 株式会社 綜合技術コンサルタント		
事務所名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

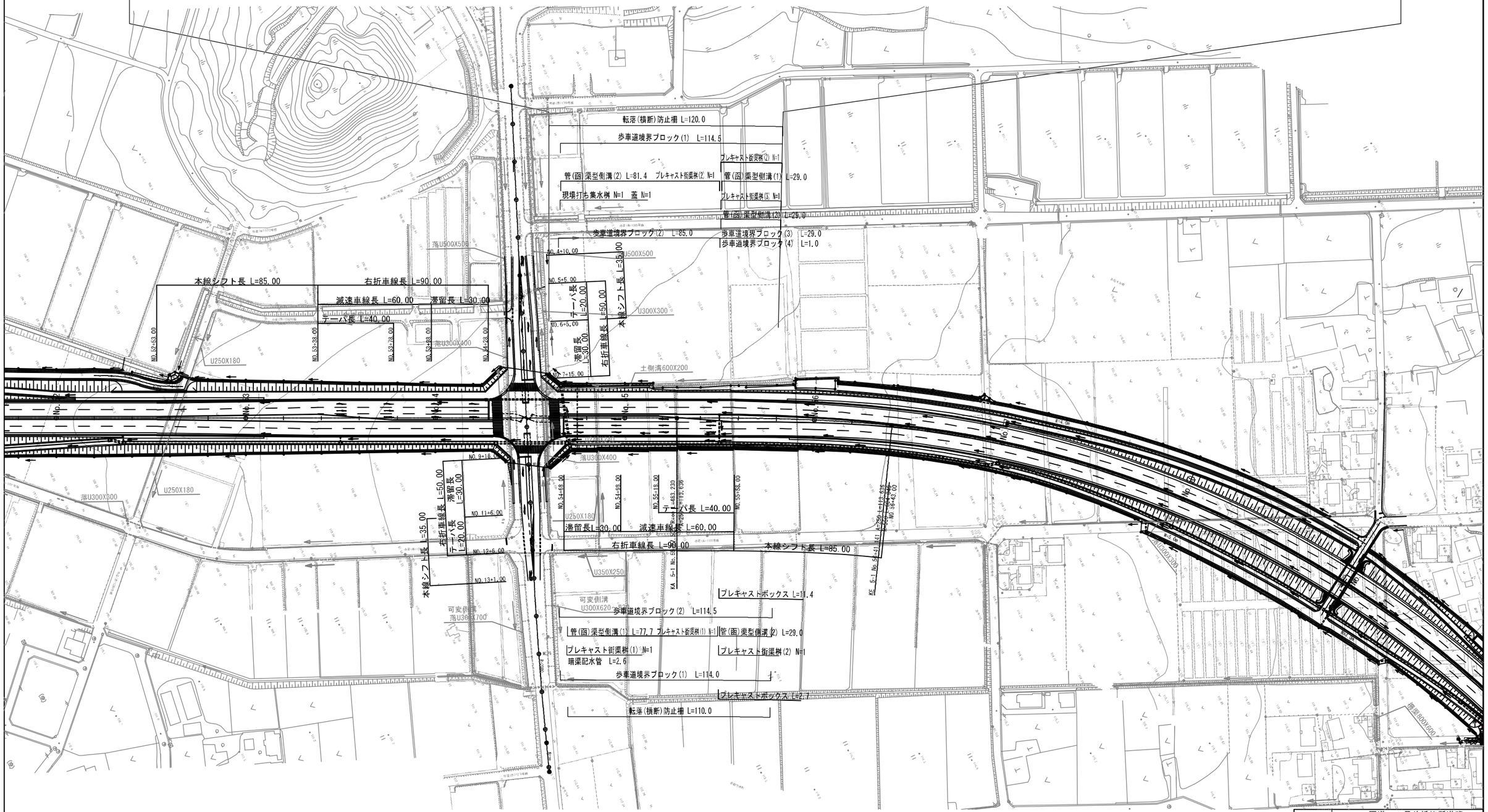
所長		副所長		課長		係長		設計	

平 面 図 S=1:1000

工事起点 NO.54+60.00

工事終点 NO.55+80.00

舗装　道路土工　路体盛土工　路体(築堤)盛土(1) V=320m3　路体(築堤)盛土(2) V=90m3　路体(築堤)盛土(3) V=180m3　土砂等運搬 V=650m3　積込(ﾙｰｽﾞ) V=650m3　法面整形工　法面整形(盛土部) A=240m2　舗装工　ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工(ICT)　下層路盤(車道・路肩部)(ICT) A=1,930m2　上層路盤(車道・路肩部)(ICT) A=1,930m2
上層路盤(車道・路肩部) A=1,930m2　基層(車道・路肩部) A=1,930m2　中間層(車道・路肩部) A=1,930m2　透水性舗装工　ﾌｨﾙﾀｰ層 694m2　下層路盤(歩道部) 694m2　表層 694m2　ｶﾙﾊﾞｰﾄ工　ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｶﾙﾊﾞｰﾄ工 1式　排水構造物工　側溝工 1式　集水桝・ﾏﾝﾎｰﾙ工 1式　防草ｺﾝｸﾘｰﾄ　張りｺﾝｸﾘｰﾄ A=220m2　縁石工 1式
中央分離帯工　張りｺﾝｸﾘｰﾄ A=102m2　防護柵工　防止柵工 1式　仮設工　交通管理工 1式

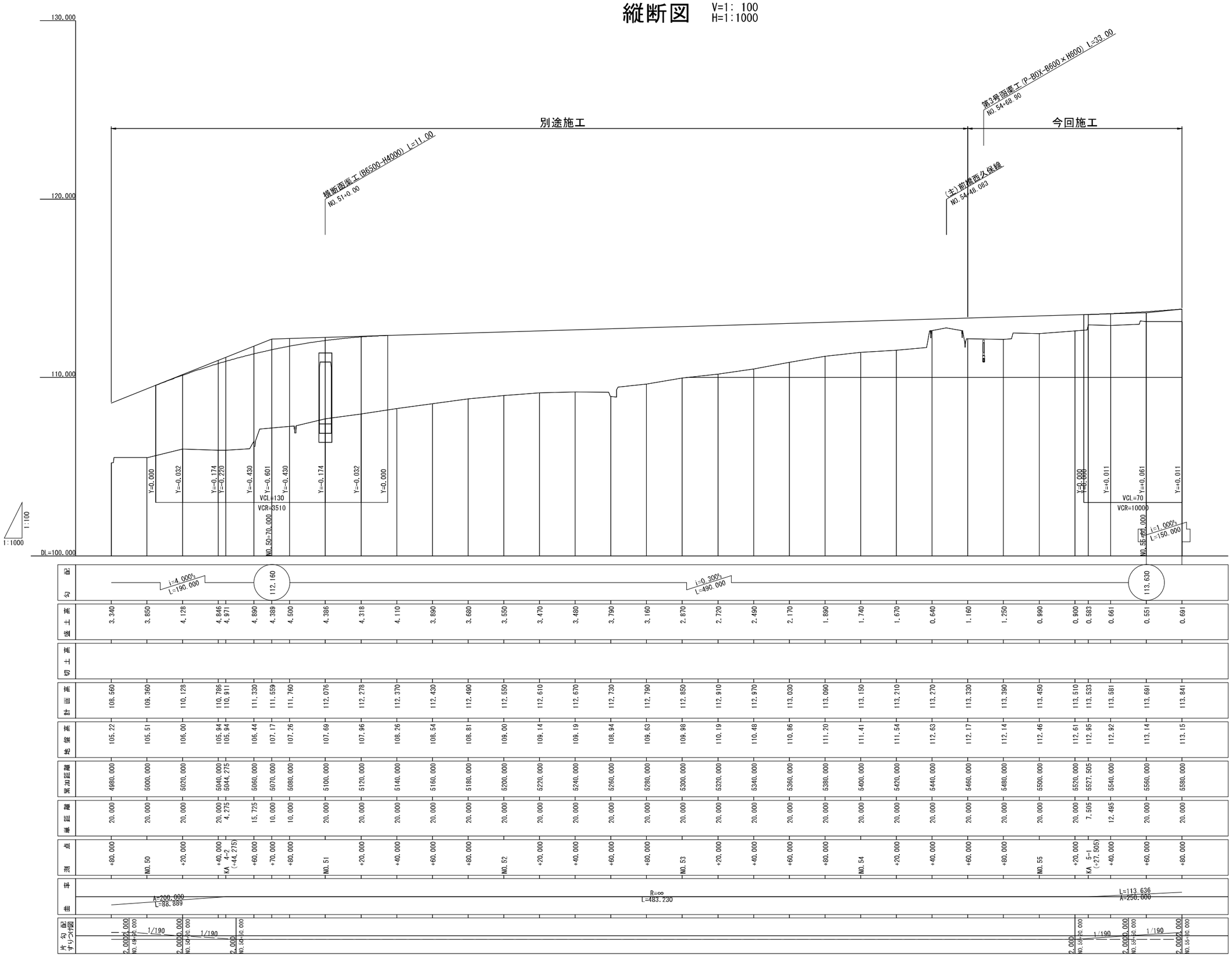


本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	平　面　図		
年月日	令和　８　年　２月　　日		
縮　尺	S=1:1000	図面番号	13 の 2
会社名	株式会社　綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

縦断図

V=1: 100
H=1:1000



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

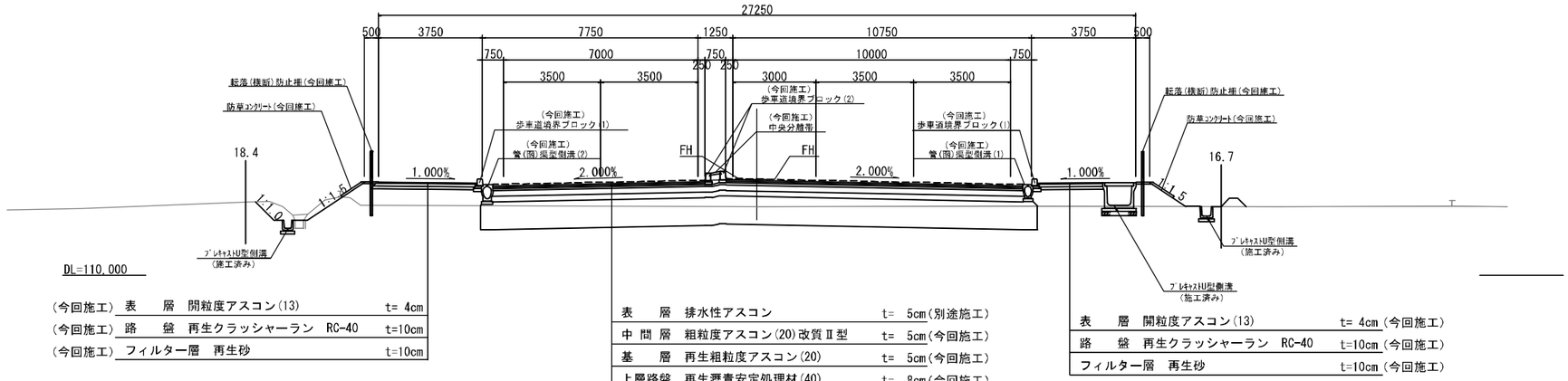
工事名	R７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	縦断図		
年月日	令和　８年　２月　日		
縮尺	V=1:100 H=1:1000	図面番号	13 の 3
会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

標　準　横　断　図　　S=1:100

設　計　条　件

本線					
規格基準	道路規格		第3種 第1級		
	設計速度		V=80Km/hr		
設計条件	設計期間		20年		
	交通量の区分		N7 (D交通)		
	設計CBR		12%		
	目標値		TA=33		
設計値			舗装厚	換算値	TA
	表層	アスファルト混合物	15cm	1.00	15.00
	中間層				
	基層				
	上層路盤	再生アスファルト安定処理	8cm	0.80	6.40
	上層路盤	粒度調整砕石	20cm	0.35	7.00
	下層路盤	再生クラッシャーラン	20cm	0.25	5.00
		合計	63cm	−	33.40

一　般　部



(今回施工)	表　層	開粒度アスコン(13)	t= 4cm
(今回施工)	路　盤	再生クラッシャーラン　RC-40	t=10cm
(今回施工)	フィルター層	再生砂	t=10cm

表　層	排水性アスコン	t= 5cm(別途施工)
中間層	粗粒度アスコン(20)改質Ⅱ型	t= 5cm(今回施工)
基　層	再生粗粒度アスコン(20)	t= 5cm(今回施工)
上層路盤	再生瀝青安定処理材(40)	t= 8cm(今回施工)
上層路盤	粒度調整砕石　M-40	t= 20cm(今回施工)
下層路盤	再生クラッシャーラン　RC-40	t= 20cm(今回施工)
路床		t=100cm(施工済み)

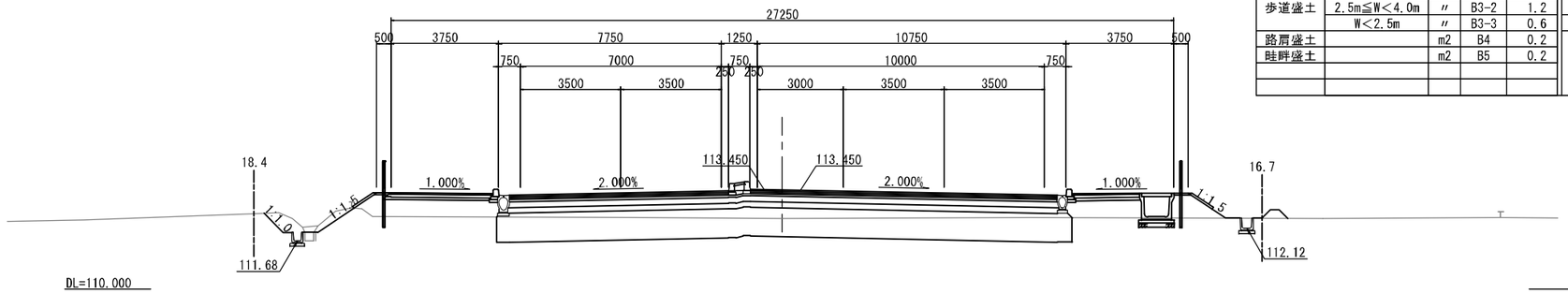
表　層	開粒度アスコン(13)	t= 4cm(今回施工)
路　盤	再生クラッシャーラン　RC-40	t=10cm(今回施工)
フィルター層	再生砂	t=10cm(今回施工)

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	標準横断図		
年月日	令和　８年　２月　　日		
縮尺	1:100	図面番号	13 の 4
会社名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

横 断 図 (1)　S=1:100

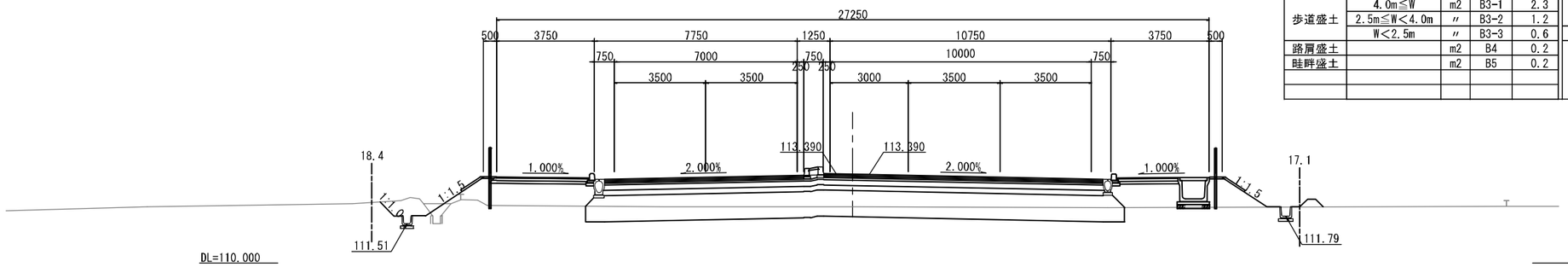
（今回施工）
No. 55
GH=112.46
FH=113.450



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	2.2
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	1.2
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.6
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	0.1
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.9
	盛土部(右)	〃	BL1-2	1.4
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

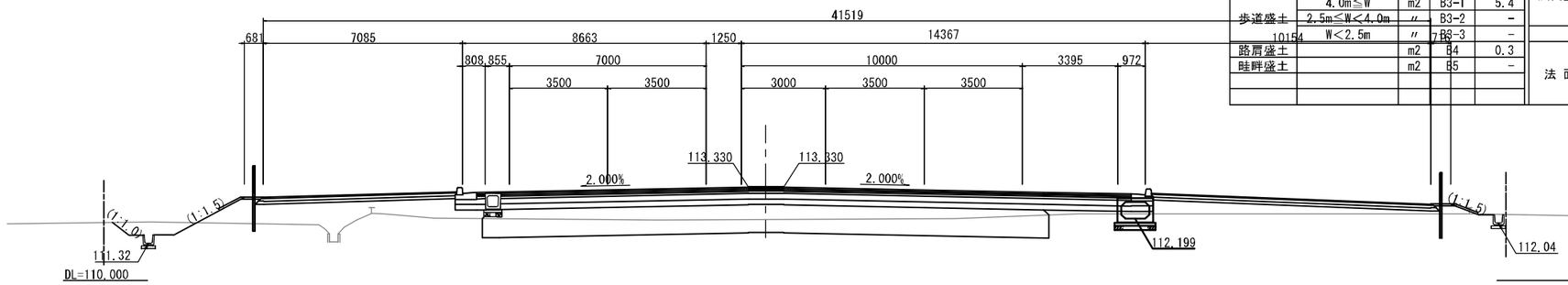
（今回施工）
No. 54+80
GH=112.14
FH=113.390



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	2.3
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	1.2
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.6
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	0.1
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.9
	盛土部(右)	〃	BL1-2	1.9
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

（今回施工）
No. 54+60
GH=112.17
FH=113.330
前橋・西久保線交差点



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	5.4
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	－
	W＜2.5m	〃	B3-3	－
路肩盛土		m2	B4	0.3
畦畔盛土		m2	B5	－

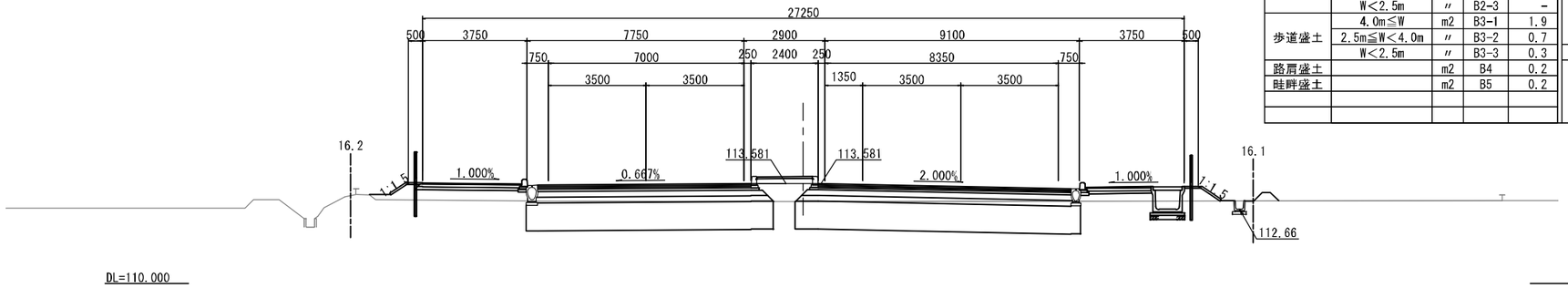
種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	－
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.9
	盛土部(右)	〃	BL1-2	0.9
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	横 断 図 (1)		
年 月 日	令和　８年　２月　　日		
縮　　尺	1:100	図面番号	13 の 5
会 社 名	株式会社　綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

横 断 図 (2)　S=1:100

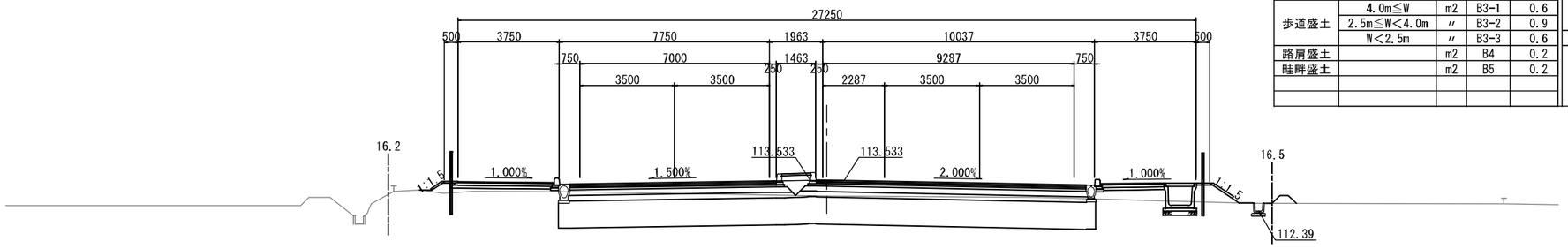
（今回施工）
No.55+40
GH=112.92
FH=113.581



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	1.9
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	0.7
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.3
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	1.3
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.6
	盛土部(右)	〃	BL1-2	0.8
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

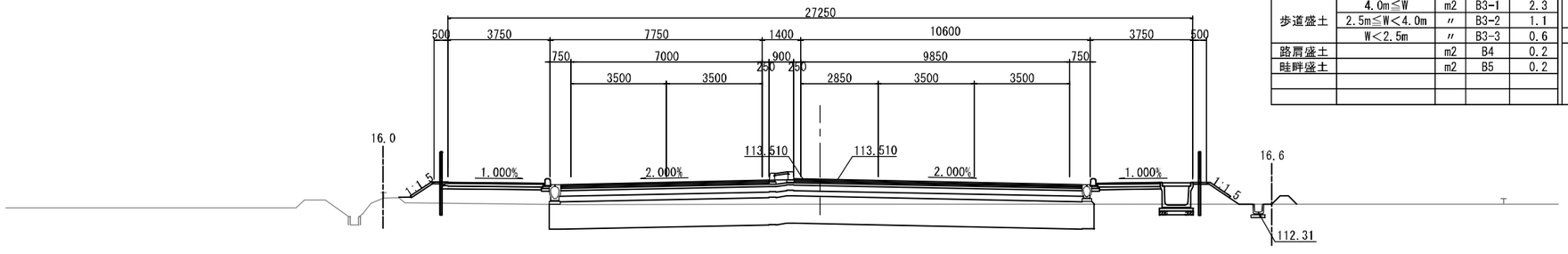
（今回施工）
KA5-1
(No.55+27.505)
GH=112.95
FH=113.533



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	0.6
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	0.9
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.6
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	0.5
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.4
	盛土部(右)	〃	BL1-2	1.2
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

（今回施工）
No.55+20
GH=112.61
FH=113.510



種　別	区　分	単位	記号	数量
掘　削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	2.3
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	1.1
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.6
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

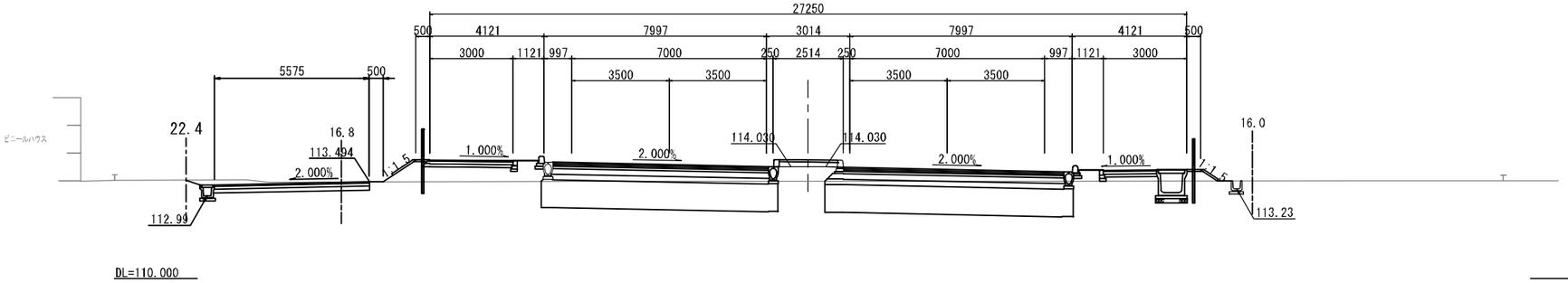
種　別	区　分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	0.2
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.9
	盛土部(右)	〃	BL1-2	1.3
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	横 断 図 (2)		
年 月 日	令和　８年　２月　　日		
縮　　尺	1:100	図面番号	13 の 6
会 社 名	株式会社　綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

横 断 図 (3) S=1:100

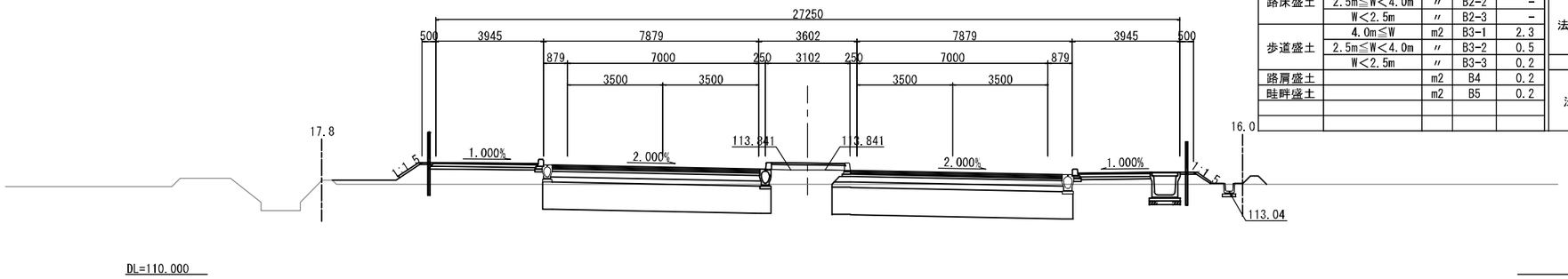
（別途施工）
No. 56
GH=113.50
FH=114.030



種 別	区 分	単位	記号	数量
掘 削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	2.3
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	0.5
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.2
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種 別	区 分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	1.8
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	1.0
	盛土部(右)	〃	BL1-2	0.6
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

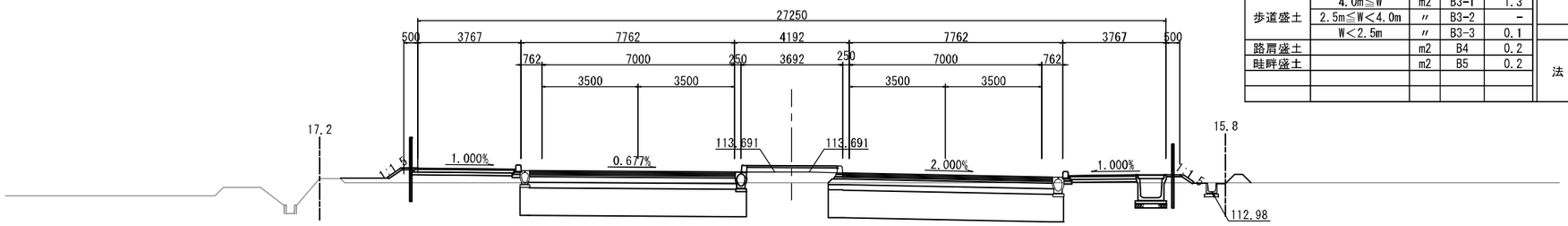
（今回施工）
No. 55+80
GH=113.15
FH=113.841



種 別	区 分	単位	記号	数量
掘 削	オープン掘削	m2	C1	－
路体盛土	4.0m≦W	m2	B1-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B1-2	－
	W＜2.5m	〃	B1-3	－
路床盛土	4.0m≦W	m2	B2-1	－
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B2-2	－
	W＜2.5m	〃	B2-3	－
歩道盛土	4.0m≦W	m2	B3-1	1.3
	2.5m≦W＜4.0m	〃	B3-2	－
	W＜2.5m	〃	B3-3	0.1
路肩盛土		m2	B4	0.2
畦畔盛土		m2	B5	0.2

種 別	区 分	単位	記号	数量
	4.0m≦W	m2	B6-1	－
路体外盛土	2.5m≦W＜4.0m	〃	B6-2	－
	W＜2.5m	〃	B6-3	－
中分盛土		m2	B7	1.8
植樹帯盛土		m2	B8	－
改良層		m2	B9	－
法面整形工	切土部(左)	m	CL1-1	－
	切土部(右)	〃	CL1-2	－
	盛土部(左)	〃	BL1-1	0.5
	盛土部(右)	〃	BL1-2	0.4
法 面 工	切土法面(左)	m	CL2-1	－
	切土法面(右)	〃	CL2-2	－
	盛土法面(左)	〃	BL2-1	－
	盛土法面(右)	〃	BL2-2	－

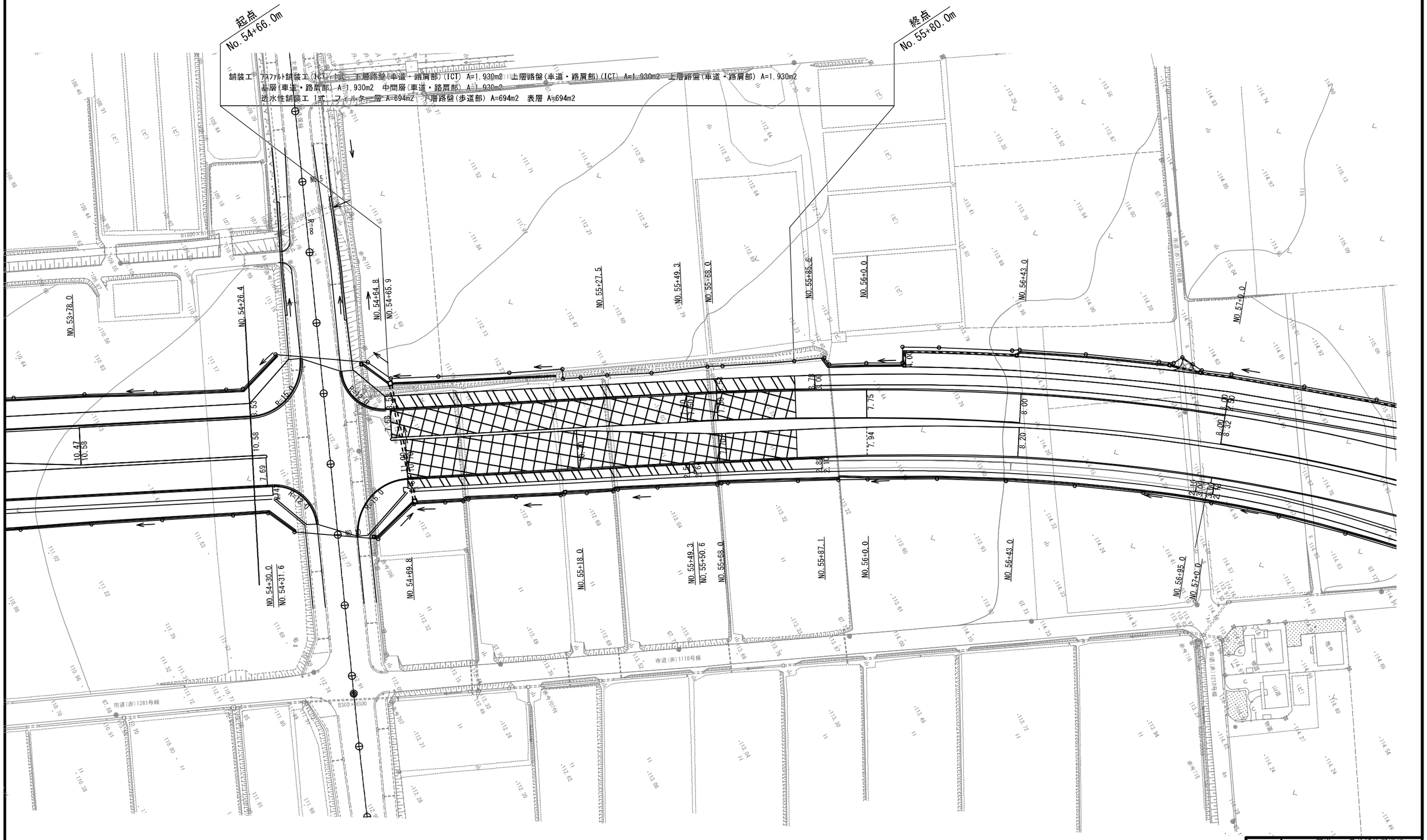
（今回施工）
No. 55+60
GH=113.14
FH=113.691



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	横 断 図 (3)		
年 月 日	令和 ８年 ２月 日		
縮 尺	1:100	図面番号	13 の 7
会 社 名	株式会社 綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

舗 装 平 面 図　S=1:500



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	舗 装 平 面 図		
年 月 日	令和 8 年 2 月 日		
縮 尺	1:500	図面番号	13 の 8
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

舗 装 構 成 図　　S=1:20

車道舗装

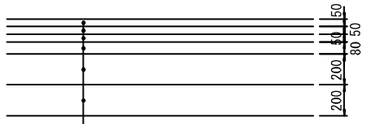


表　　層	排水性アスコン	t= 5cm	（別途施工）
中 間 層	組粒度アスコン(20)改質Ⅱ型	t= 5cm	（今回施工）
基　　層	再生組粒度アスコン(20)	t= 5cm	（今回施工）
上層路盤	再生瀝青安定処理材(40)	t= 8cm	（今回施工）
上層路盤	粒度調整砕石　M-40	t=20cm	（今回施工）
下層路盤	再生クラッシャーラン　RC-40	t=20cm	（今回施工）

歩道舗装

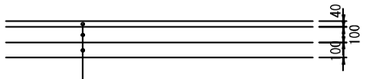


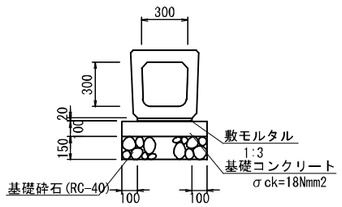
表　　層	開粒度アスコン(13)	t= 4cm	（今回施工）
路　　盤	再生クラッシャーラン　RC-40	t=10cm	（今回施工）
フィルター層	再生砂	t=10cm	（今回施工）

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	舗 装 構 成 図		
年 月 日	令和　8　年　2 月　　日		
縮　　尺	S=1:20	図面番号	13 の 9
会 社 名	株式会社 復建技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

小構造物図 (1) S=1:20

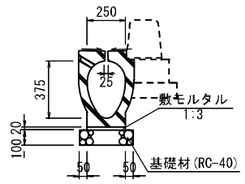
プレキャストボックス



プレキャストボックス 材料表　10m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾎﾞｯｸｽ	B300-H300	m	10.0	
敷モルタル	1:3	m³	0.07	
基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=18Nmm2	m³	0.6	
型枠		m²	2.0	
基礎砕石	RC-40, t=150	m²	5.6	

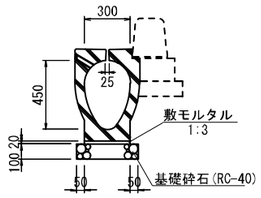
管(函)渠型側溝(1)



管(函)渠型側溝(1) 材料表　10m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝	250×375	m	10.0	L=2000
敷モルタル	1:3	m³	0.05	
基礎材	RC-40, t=100	m²	3.5	

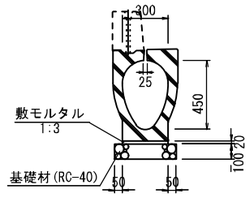
管(函)渠型側溝(2)



管(函)渠型側溝(2) 材料表　10m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝	300×450	m	10.0	L=2000
敷モルタル	1:3	m³	0.06	
基礎砕石	RC-40, t=100	m²	4.0	

管(函)渠型側溝(3)



管(函)渠型側溝(3) 材料表　10m当り

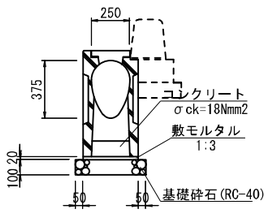
名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝	300×450	m	10.0	L=2000
敷モルタル	1:3	m³	0.06	
基礎砕石	RC-40, t=100	m²	4.0	

暗渠排水管

暗渠排水管 材料表　10m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
硬質塩化ビニル管	VU300	m	10.0	

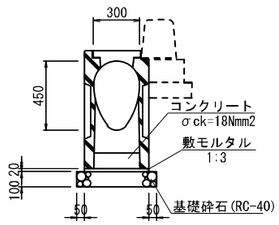
プレキャスト街渠桝(1)



プレキャスト街渠桝(1) 材料表　10箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝用桝	250×375	個	10.0	L=1000
敷モルタル	1:3	m³	0.07	
コンクリート	σck=18Nmm2	m³	0.3	
基礎砕石	RC-40, t=100	m²	4.6	
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	並目 T-25	枚	10.0	

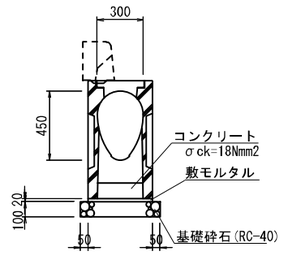
プレキャスト街渠桝(2)



プレキャスト街渠桝(2) 材料表　10箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝用桝	300×450	個	10.0	L=1000
敷モルタル	1:3	m³	0.08	
コンクリート	σck=18Nmm2	m³	0.3	
基礎砕石	RC-40, t=100	m²	5.2	
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	並目 T-25	枚	10.0	

プレキャスト街渠桝(3)



プレキャスト街渠桝(3) 材料表　10箇所当り

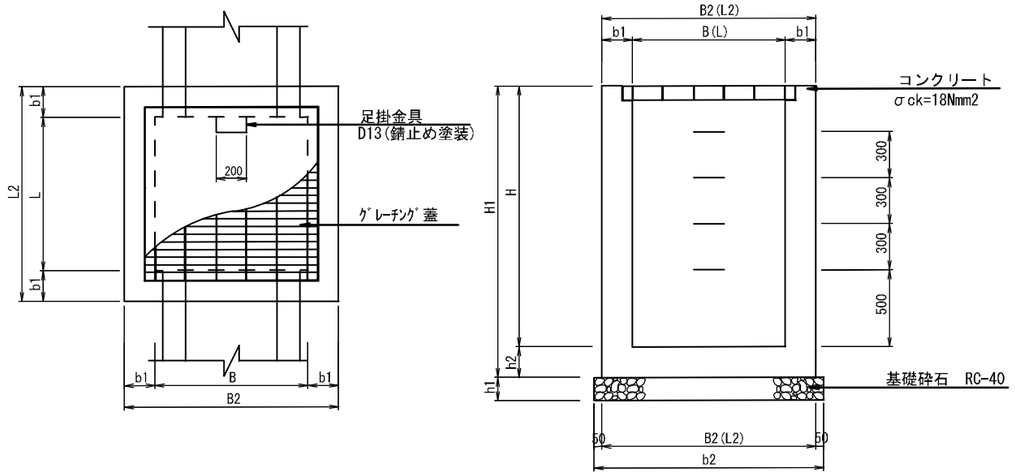
名称	規格	単位	数量	摘要
管(函)渠型側溝用桝(中央分離帯)	300×450	個	10.0	L=1000
敷モルタル	1:3	m³	0.08	
コンクリート	σck=18Nmm2	m³	0.3	
基礎材	RC-40, t=100	m²	5.2	
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	並目 T-25	枚	10.0	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	小構造物図 (1)		
年月日	令和 ８年 ２月 日		
縮尺	1:20	図面番号	13 の 10
会社名	株式会社 綜合技術コンサルタント 大日コンサルタント株式会社		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

小構造物図 (2) S=1:20

現場打ち集水桝



寸法表

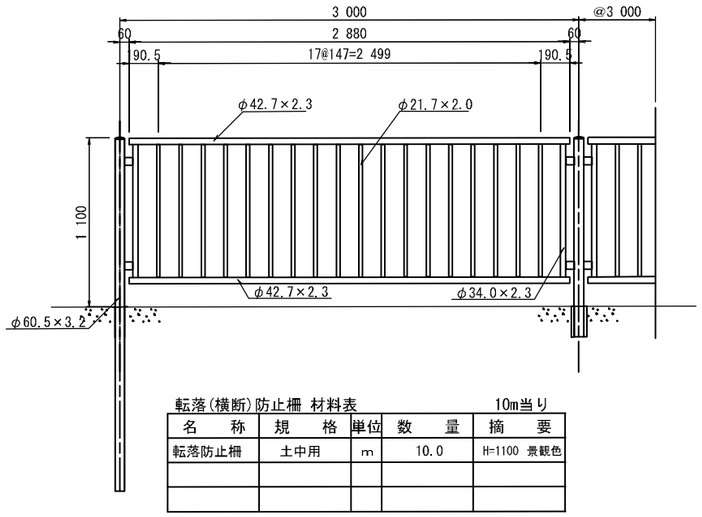
記号	桝蓋	寸法表 (単位mm)							
		b1	B2	b2	L2	l2	H1	h1	h2
B 700 -L 700 -H1000	グレーチング蓋 車道用	150	1000	1100	1000	1100	1150	150	150

現場打ち集水桝 材料表　　10箇所当り

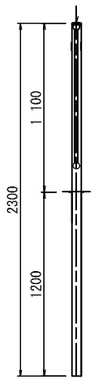
名称	規格	単位	数量 B 700 -L 700 -H 1000(車)	摘要
コンクリート	σck=18Nmm2	㎥	5.9	
型枠		式	1.0	
基礎砕石	RC-40, t=150	㎥	12.1	
基礎砕石	RC-40, t=200	㎥	-	
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	車道用	組	10	T-25 細目ﾎﾞﾙﾄ固定
足掛金具		本	-	

転落(横断)防止柵

正　面　図



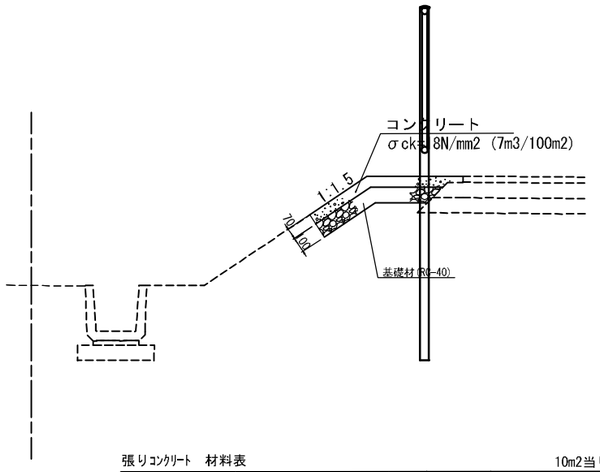
側面図(土中用)



転落(横断)防止柵 材料表　　10m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
転落防止柵	土中用	m	10.0	H=1100 景観色

防草コンクリート 張りｺﾝｸﾘｰﾄ



張りｺﾝｸﾘｰﾄ 材料表　　10m2当り

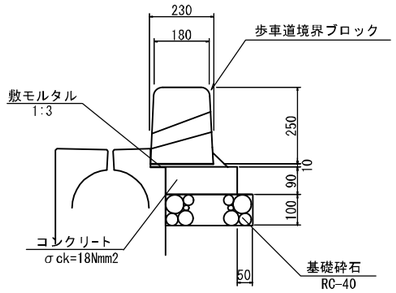
名称	規格寸法	単位	数量	摘要
型枠		式	1	
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=18N/mm2 t=70mm	m2	10.0	
基礎材	RC-40 t=100mm	m2	10.0	
目地材	樹脂発泡体(30倍) t=10mm	m2	0.07	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道50号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その1工事
図面名	小構造物図 (2)
年月日	令和 8年 2月 日
縮尺	1:20　図面番号 13 の 11
会社名	株式会社 復建技術コンサルタント 株式会社 綜合技術コンサルタント
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所

小構造物図 (3)　S=1:10

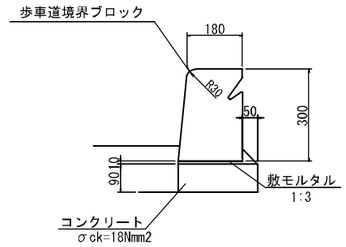
歩車道境界ブロック(1)



歩車道境界ブロック(1)　材料表　　10m当り

名　称	規　格	単位	数　量	摘　要
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	両面R B種	個	16.5	L=600
敷モルタル	1:3	m³	0.04	
コンクリート	σck=18Nmm2	m³	0.4	
型　枠		式	1.0	
基礎砕石	RC-40, t=100	m²	2.8	

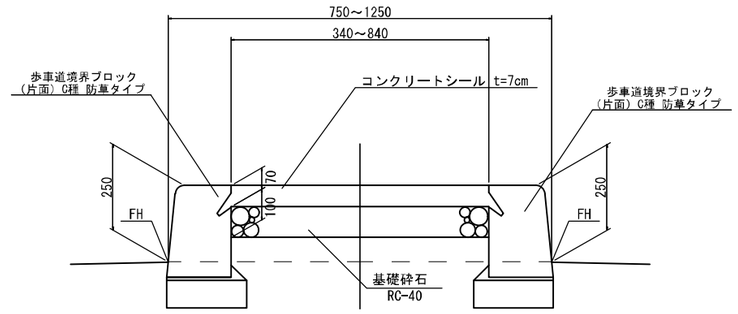
歩車道境界ブロック(2)



歩車道境界ブロック(2)　材料表　　10m当り

名　称	規　格	単位	数　量	摘　要
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	片面R C種	個	10.0	L=1000 防草ﾀｲﾌﾟ
敷モルタル	1:3	m³	0.03	
コンクリート	σck=18Nmm2	m³	0.2	
型　枠		式	1.0	

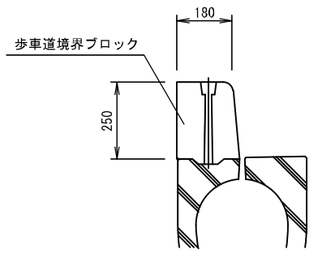
中央分離帯
張りコンクリート



中央分離帯 材料表　　10m² 当り

名　称	規　格	単位	数　量	摘　要
コンクリート	σck=18Nmm2	m²	10.0	
基礎砕石	RC-40 t=100	m²	10.0	
目 地 材	樹脂発泡体 (30倍) t=10mm	m²	0.07	

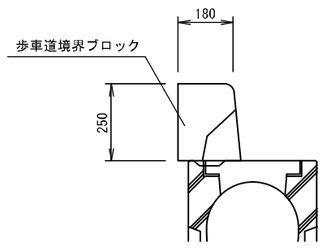
歩車道境界ブロック(3)



歩車道境界ブロック(3) 材料表　　10m当り

名　称	規　格	単位	数　量	摘　要
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	片面R H250	m	10.0	L=1000

歩車道境界ブロック(4)



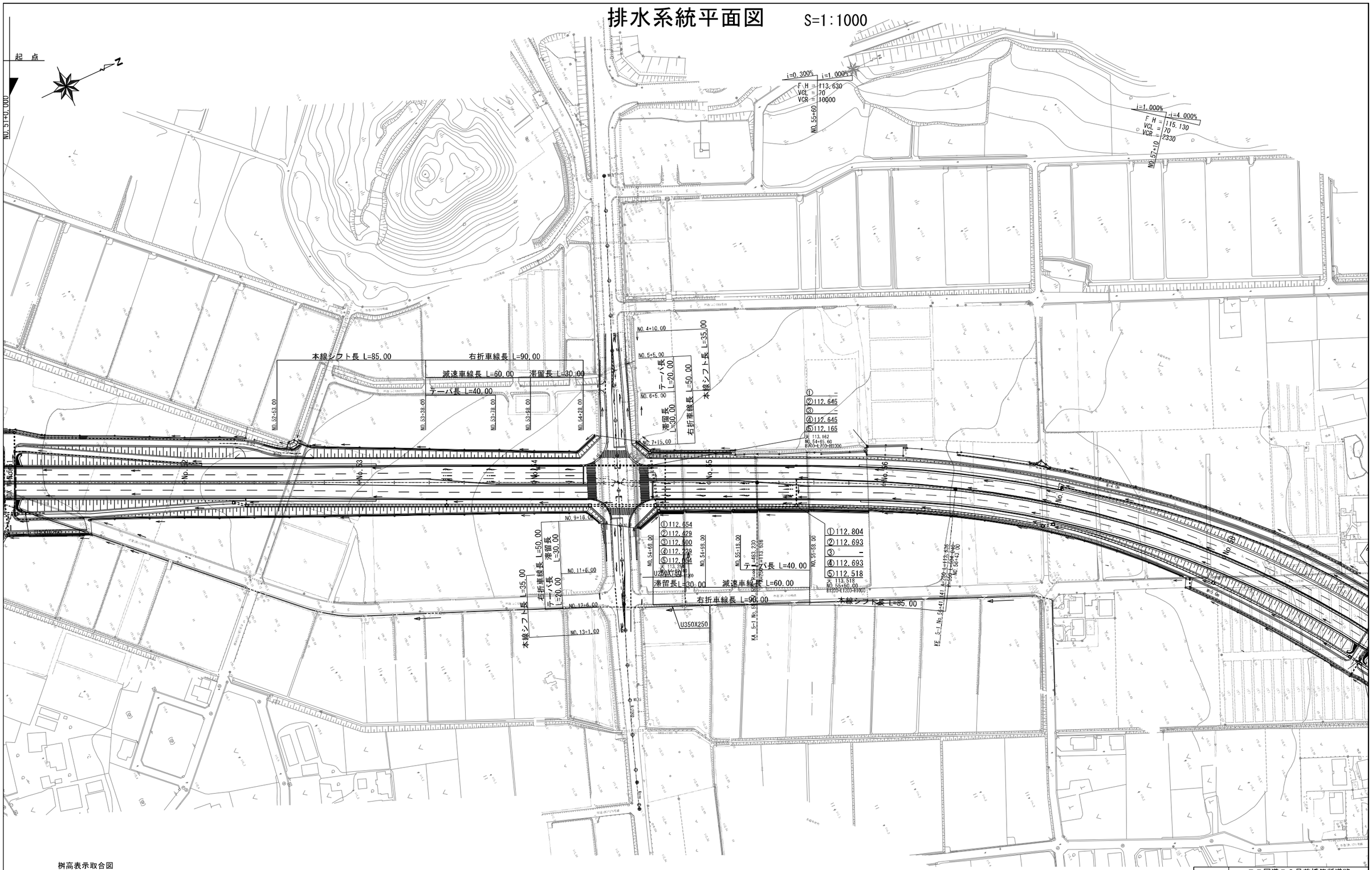
歩車道境界ブロック(4) 材料表　　10m当り

名　称	規　格	単位	数　量	摘　要
歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	片面R H250	m	10.0	L=1000

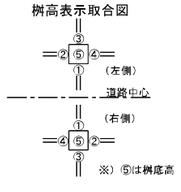
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図 面 名	小構造物図 (3)		
年月日	令和　８年　２月　　日		
縮　　尺	1:10	図面番号	13 の 12
会 社 名	株式会社　綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		

排水系統平面図　S=1:1000



桝高表示取合図



凡例	
――	本線排水（路面排水）
――	用排水

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	Ｒ７国道５０号前橋笠懸道路 赤堀今井地区舗装その１工事		
図面名	排水系統平面図		
年月日	令和　８年　２月　日		
縮尺	S=1:1000	図面番号	13 の 13
会社名	株式会社　綜合技術コンサルタント		
事業者名	国土交通省 高崎河川国道事務所		